

第二十七回帝國議會
衆議院

商法中改正法律案外二件委員會會議錄(速記)第五回

會議

明治四十四年三月十日午前十時五十七分開議

出席委員左ノ如シ

鳩山 和夫君

宮古 啓三郎君

小川 平吉君

渡邊 修君

長島 鷲太郎君

松田 源治君

佐々木 文一君

片岡 直温君

關 直彦君

守屋 此助君

藤代 市之輔君

高木 益太郎君

根津 嘉一郎君

鈴木 總兵衛君

木村 省吾君

加瀬 禪逸君

出席國務大臣左ノ如シ

司法大臣 子爵岡部 長職君

出席政府委員左ノ如シ

司法次官 法學博士 河村讓三郎君

司法省參事 齊藤十一郎君

司法省民刑局 長法學博士 平沼騏一郎君

司法省參事 山内確三郎君

大藏省主税局長 菅原 通敬君

農商務省商務局長 大久保利武君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

商法中改正法律案

非訟事件手續法中改正法律案

○委員長(法學博士鳩山和夫君) 是ヨリ委員會ヲ開會致シマス

○渡邊修君 私ハ極ク簡單ナ質問デアリマス、此改正案ニ依リマスルト云フト取締役及

監査役ハ株主以外ヨリ選任シ得ルコトガ出來ルヤウニナツテ居ルと思ヒマスガ、其理由如

何、過日監査役ニ付テ一部分ノ理由ヲ御述ベニナリマスガ、マダ大分理由ガアルヤウニ

思ヒマスガ、其理由ヲ伺ヒタイ序デアリマスガ、伺ヒマスガ、百六十二條ノ二ノ二項ニ訴

ノ提起及ヒ口頭辯論ノ期日ハ取締役選任ノ公告スルコトヲ要ス「トアリマス、是ハ

新聞紙等ニ公告スルコトヲ要ス「ト思ヒマスガ、何ノ必要ガアツテ此公告スルノデアリマ

スカ、ソレカラモウ一ツハ百六十七條ノ二デアリマス、是ハ私ノ讀方ガ惡ルイカモ知レマセヌ

ガ、取締役ノ任務ガ終了シタル場合ニ於テ法律又ハ定款ニ定メタル員數ノ取締役ナキニ

至リタルトキ云々、斯ウアリマスガ、併シ其取締役ノ選舉ト云フコトヲ大抵同時ニヤルノデ

アリマスカラ任務ガ終了シタ、即チ任期ガ切レタナラハ多クノ場合ニ於テハ皆ナクナツテシマ

フノデアリマスガ、ソレニ「取締役ノ任務ガ終了シタル場合ニ於テ法律又ハ定款ニ定メタ

ル員數ノ取締役ナキニ至リタルトキハ「トアリマスガ、至リタルトキハ「テナク、多クノ場合ナ

キニ至ルノデアリマスガ、是ハドウ云フ意味デアリマスガ、ソレハ成程途中テ補缺選舉ナド

ノアツタ場合ニハ多少大部分ノ取締役ノ任期ガ來テモ一人カ二人殘ツテ居ラナケレバナラヌ場合ガナイトハ云ヘマセヌガ、多クノ場合ニハナクナルノデアリマスガ、斯ウ云フ場合ハ少ナクノデアリマスガ、之ガ普通ノヤウニ書イテアルノガ分ラヌデス

○鈴木總兵衛君 今ノ質問ニ關聯シテチヨット……

○委員長(法學博士鳩山和夫君) 渡邊君ノ質問モ大分アツタヤウデスカラ、アトニシタラドウデス

○鈴木總兵衛君 質問ガ關聯シテ居リマスカラ——チヨットデス、取締役ノ任期ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ズ、是ハ現行法ニハ再選ヲ妨グズトアリマス、今度ノ改正案デハ「妨グズ」ヲ削ラレテアル、學者的ニ解釋スレバ二年目ニ再選シテ差支ナイト云フコトニナルカ知レマセヌガ、一般ノ人ニハ何デカ二年スレバ再選ガ出來ヌカノヤウニ聞エマスガ、削ラレマシタノハドウ云フ趣意デ削ラレタノデアリマスガ、御序デ……

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 御答致シマス、先ツ渡邊君ノ御質問カラ御答ヲ致シマス、改正案ニ於キマシテ取締役ノ資格ノ制限ヲ廢止シタルハ如何ナル理由デアアルカト云フノガ、第一點ノ御問ノヤウデゴザイマシタ、此點ニ付キマシテハ前回ニ於キマシテモチヨット其理由ノ一斑ヲ洩シマシタノデゴザイマスガ、ソレニ尙追加ヲ致シマシテ御答ヲ致シテ置カウト存ジマス、前回ニモ申上ゲマシタ通り監査役ニハ公許計算士ノ如キモノヲ選任スル方ガ會社ニ取リマシテハ餘程必要ノ場合ガアルデアラウ、然ルニ公許計算士トシテ一定ノ業務ヲ營ンデ居ルモノハ唯今ハゴザイマセヌケレドモ、將來若シアリトスレバ左様ナ業務ヲナシテ居ルモノハ恐クハ自己ガ這入ラントシマス株主デハゴザイマス、株主デアツタト致シマシテモ、通例重役トシテノ資格ヲ持ツベキ株主ノ性質ト云フモノハ或ハ百株トカ五十株トカ云フコトニナツテ居リマスガ、左様ナ株式ノ數ヲ持ツ株主デハゴザイマス、サウ致シマスルト現行法ノ下ニ於キマシテハ公許計算士ノ制度ヲ認メマシタトコロガ、監査役ニ就任スルコトハ出來ナイト云フコトニナルノデアリマス、ソレ故ニ此公許計算士ノ將來ノ制度ヲ先ツ見マシテ、サウシテ其途ヲ開クニ差支ノナイヤウニ致スニハ此資格ノ制限ニ關スル規定ニ付テ研究スル必要ガアルノデアリマス、ソコデ各方面カラ出テ居リマス意見ノ中ニモ此監査役ハ株主タルコトヲ要セズチヤナイカト云フコトガアツタノデアリマス、段々研究致シテ參リマスルト、全體監査役ト云フモノハドウ云フノデアアルカ、私ハ講義スル譯チヤアリマセヌケレドモ、成行ヲ大體御話ヲ致シマス、申スマデモナク會社ノ最高機關ハ即チ株主總會デアリマス、此株主總會ガ會社ノ最高機關デアリマシテ、取締役ト雖モ其意思ニハ從ハナケレバナラヌノデアリマス、而シテ其取締役ノ行為ヲ監督スル任務ヲ持ツテ居ルモノデアリマス、併ナガラ此株主總會ト云フモノハ常設機關デハゴザイマセズ、之ヲ開クト致シマシテモ手續ガ非常ニ困難デゴザイマスカラ減多ニ開ケルモノデモナイノデ、左様致シマスルト業務執行ノ責任ヲ持ツテ居ルコトノ取締役ヲ監督スベキ常設機關ト云フモノガ必要トナツテ居ル、之ガ即チ監査役制度ノ起リマスル理由デアラウト存ジマスルノデアリマス、監査役ナルモノハ株主總會ヲ或ル意味ニ於テ代

表スルモノデアル、斯様ニ考ヘマスルト監督役ニハ株主カラ適任スルノガ相當デアルノデハ
ナイカト云フコトニ歸著スルノデアリマス、即チ株主カラ選マレテ株主總會ガ性質トシテ
行ヒマスヤウナ職務ヲ常時行テ居ル監督致ス機關デアリマス、ドウシテモ株主ノ利益ヲ
代表シ、株主カラ選出スルコト云フノガ當リ前ダラウト思フ、併ナガラ唯今申上ゲマシタヤ
ウニ公許計算士ノ途ヲ開クト云フコトニ付キマシテハ此法モ宜イノデアリマススカラ會社ノ
意思ニ依リマシテ必シモ株主タルコトハ要シナイト云フコトニシテ置キマセヌケレバ、公許
計算士ノ途ヲ開クトハ出來ナイノデ、左様致シマスルト監督役ノ方ニ株主タル資格ヲ
必要トセヌト云フコトニナリマスレバ、取締役ノ方ハ尙更必要ガナイト云フコトニナル、何
トナレバ取締役ハ株主ノ意思ヲ代表シ株主ノ利益ヲ代表スルコト云フヨリモ、寧ロ會社ノ
業務ヲ執行スルノ任ニ當ルモノデアル、業務ヲ執行スルノ任ニ當ルモノデゴザイマスカラ、
性質カラ見マスルト此方ガ却テ株主カラ選出サレルト云フ理由ガ乏シイノデアリマスノミ
ナラズ、是ハ理論デアリマスガ實際カラ申セバ今日取締役トシテ選任サレテ居ルモノハ果
シテ實際ノ株主デアアルカナイカ、或ハ持株ト唱ヘマシテ真正ノ株主ガ株ヲ貸渡シテ而シテ
取締役トシテ選舉スルコト云フ實際モアルノデゴザイマス、サウシテ斯様ナル實際ガアッタニ
致シマシテモ、其取締役ハ即チ他人ノ株ヲ借りテ重役ニナッタトコロノ其取締役ハ會社
ニ然ラバ如何ナル危險ナル行爲ヲ爲シタ實際ガアルカ、是ハ餘リ聞及バヌノデアリマス、
株主カラ選任サレタモノト他人ノ株ヲ借りテ取締役ニナッタモノトノ間ニ、實際上會社ノ
利害ヲ圖ル上ニ於テ、厚イ點ト薄イ點トアルト云フコトハ、是マデ實際ニ於テ餘リ聞及
バヌノデアリマス、殊ニ取締役ノ中ニ代表取締役ト然ラザルモノトヲ選ビマシタ結果トシテ
代表權ヲ持ッテ居リマセヌ取締役ノ數ガ或ハ將來殖ヘルデアラウト思ヒマス、何デアアルカト
申シマスルト、或ハ特別ノ知識ヲ持ッテ居ルモノ、或ハ特別ノ技藝ヲ持ッテ居ルモノデ有
名ナル人ヲ其タメノ取締役トシテ選任スルコト云フコトモ起ッテ參ルデアラウ、現ニ法律顧
問デアルトカ、電氣技術ノ顧問ト云フ如キモノガ取締役トシテ就任スル場合ガ多々アル
デアラウト思ヒマス、但シ代表權ヲ持タセテ——左様ナ人ヲ會社ニ入レマスル便宜モア
ルデアラウト思ヒマス、旁々以チマシテ必シモ株主タルコトハ必要トセヌ、若シ會社ガ是非
株主カラ選バネバ會社ノタメニ利益ナラヌト云フ者ヲ持ッテバツレハ定款極メレバ宜シ、
定款ニハ無論禁ジテゴザイマセヌカラ定款ノ定ムルコトニ據ルノデス、其方ガ實際ノ便
宜ヲ與ヘルノデナイカ、カヤウナ複雑ハ致シマスルガ種々ナ理由カラシテ資格ノ制限ヲ廢シ
タ次第デゴザイマス、ソレカラ第二ノ御質問ハ百六十二條ノ第三項ノ訴訟ノ提起及口
頭辯論期日ノ公告ハ何ノ必要ガアツテナスノデアアルカト云フ御尋デゴザイマシタ、之ハ一
口ニ申セバ聯合訴訟ヲ防グ目的デアリマス、ツマリ會社ノ重役ガ總會ノ決議ニ對シテ反
對ノ意見ヲ持ッテ居ル場合ガアルト假定シマシテ、其トキニハ取締役ヲシテ訴ヲ起サシメ
ル、而シテ自分ハ會社ヲ代表シテ參ッテ公ニセラレナイ間——ツマリ株主一般ニ知レ
渡ラザル間ニ、訴ノ請求ヲ認諾致シマシテサウシテ訴了ヘテシマツテ總會ヲ無効トスルカ
ヤウナコトガアリマシテハ、總テ株主ガ知ラヌ間ニ何時ノ間ニヤ總會ガ取消サレテ居ルト
云フコトニナル、ソレ故ニ此訴ノ提起ハ公告セシメル、口頭辯論ノ期日ヲ公告セシメルノ
ハ此間ニ於キマシテ其訴ノ反對ノ株主ヲシテ訴訟上爭フベキトコロノ材料ヲ準備セシメ
タルタメデアアルノデ、御承知ノ通り口頭辯論ハ急迫ナル場合ニ於テハ非常ニ短イ期間ニ

之ヲ開クトガ出來ルノデアリマスカラ、訴ノ提起ダケ公告ガアッタ致シマシテモ、何時
口頭辯論ガアルカト云フコトガ分リマセヌト、極ク急ニ口頭辯論ヲ開イテ決議ヲ無効ト
セラレルト云フハ慎カアルノデアリマス、ソレ故ニ其點モ公告セシメル方ガ必要トナッテ參ルノ
デアリマス、此規定ハチヨット見マスルト云フト會社ノ取締役ニ妙ナ責任ヲ負ハセタヤウニ
御取リニナルカモ存ジマセヌケレドモ、是ハ決議無効ノ訴ノ結果ガ公平、而シテ實際ノ
事實ニ合フヤウニ勉メルコトハ取締役ノ任務デアラウ、會社ノ業務ヲ執行スルコトノ取
締役ノ任務デアラウト思ヒマスルカラ、法律デ是ダケノ責任ヲ取締役ニ負ハセマシタトコ
ロ決シテ無理ナコトデナカラウト思フ、次ノ第三ノ御尋ハ百六十七條第二項場合デゴザ
イマス、此場合ニ取締役ノ任務ガ終了シタル場合ト云フノハ大抵ハ取締役全員ノ任務
ガ終了シタル場合デアアル、デアラウカラ斯様ナ規定ヲ適用ノ場合ガナイデアリカト云フ、御
質疑ノヤウニ承ハリマシタ、併シ是ハ尙御再考ヲ煩ハシタイノハ取締役ハ何時ニモ辭任ガ
出來ルノデアリマス、特ニ民法ニ辭任ニ關スル規定ノ趣意ヲ明カニ致シマシタ結果トシテ、
何時ニモ辭任ガ出來ルノデアリマスカラ、辭任ノ場合モ一ノ例デアリマス、左様ニ御承
知ヲ願ヒマス、一部分辭任致シテ定數ニ足ラナイ場合ガアリ得ルノデゴザイマス
○渡邊修君 辭任デモ任務ノ終了ト云フコトガ出來マスカ
○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 辭任モ任務ノ終了ノ一部デアアルコトハ論ハ
ゴザイマセヌ、次ニ鈴木君ノ御質問ニ御答致シマスガ、現行法百六十六條ノ但書ヲ削
除シタ理由ハドウカト云フ御尋デゴザイマス、改正案ニ於キマシテハ左ノ如ク改ムトナッ
テ全ク別ノコトヲ規定ニナッテ居リマスカラ、内容ニ於キマシテ現行法百六十六條ノ但書
ヲ削除スルコトニナリマスガ、任期滿了ノ後之ヲ再選スルコトヲ妨ゲザルハ是ハ當然ノコ
トデ、是ガゴザイマセヌデモ斯様ニ相成リマス、殊ニ改正案ニ於キマシテ會社ノ取締役ノ間
ノ關係ガ委任ニ從フデゴザイマス、以上ハ論ハナイ、ヤハリ委任契約ガ成立チマスレバ、元
ト取締役ニ就任シテ居ッタモノガ此次ニ委任契約ヲ取結ベヌコトノナイ譯ハ論ハナイコト
デアアル、而シテ是マデアツタノデアアルカラ唯疑ヒナイ位デ削ルノハ不當デアリカト云フ御趣
意ヲ持ッテ居リマスケレドモ、此規定ガ却テ疑問ヲ惹起シマス、ト云フノハ任期滿了ノ後
再選ヲ妨グズトゴザイマスカラ任期滿了シナイ中ニ再選スルノハ無効デアリカト云フ解
釋ガ起リマス、任期滿了シテデナケレバ總會ヲ開イテ改メルコトガ出來タト云フコトニナ
リマスカラ、前ニ選定シテアルモノガ其選舉ガ無効デアルト云フヤウナ疑ヲ起スノデアリマ
ス、甚ダ穩當ナラザル書方デゴザイマスノデ、其點ヲ明カニシヤウトスル必要ガアルノデア
リマス、併ナガラ其規定自體ガ餘リ必要デナイ當リ前ノコトヲ書イテアルナラバ、斯様ナ
規定ハ全部削リマシテ置ク方ガ却テ宜カラウ、斯ウ云フ趣意デ削除シマシタ趣意デアリ
マス
○守屋此助君 私ハ貴族院デ修正シテ回サレタ百九十四條ノ二ノコトニ付テ御問ヲ
致シタイ、之ニ「第二十六條第二項ノ規定ニ依リテ會社ノ財產ニ附スル價額ヲ取得
價額又ハ製作價額ニ超ユルトキハ其差額ハ利益トシテ之ヲ處分スルコトヲ得ス」カウゴ
ザイマシテ、二十六條ノ第二項ニ依リマスレバ取得價額並ニ製作價額ヨリ超過シタ價額
ガ財產目錄作ルトキニアルナラバ、其財產目錄ノ調製ノ當時ノ價額ニ依ッテ調製シテ
宜シイト云フ事柄ハ二十六條ノ二項ガ許ストコロデアアル、斯ウ此處ニ書イテ幾十萬圓ト

云フ利益ガアタモノガ會社ノ利益金トシテ處分スルコトハ出來スト云フ絶對ニ禁シテ居ル、是デ大藏省ノ政府委員ニ問フハ二様ニナル、利益トシテ計算スルモノデアルカラ先ヅ第一所得稅ノ關係ニ此利益トシテ製作價額並ニ所得價額ヨリ超過シタ價額ヲ二十六條第二項デ財產目錄ニ載セルニ幾十萬圓載セタカ、此價額ニ付テラレタケノ價額ヲ所得稅ノトキノ所得トシテ見テ居ラレバ否ヤ、第二營業稅ノ關係ヲ大藏省ニ問フハ、斯ウナルト此金ハ積立金ニナルデアラウト思フ、利益金トシテ處分スルコトハ出來ヌ、併ナガラ茲ニ是デ大藏省ノ政府委員ニ問フハ、業體ニモ依ルガ概シテ資本金ニ課シテアル會社ガ多イ、此資本金ト云フ言葉ノ中ニハ拂込ノ金ハ勿論ダガ、積立金モ資本金トシテ營業稅ハ課シテアルト心得テ居ル、サウスルト此利益金ト云フモノハ第一ニ置イテ、一度ハ所得稅ヲ一度掛ケラレテ未來永劫營業稅ヲ積立金トシテ置ケバ、之ヲ掛ケラレト云フコトニナルデアアルカト云フコト、サウシテ見ルト云フト先ヅ凡ソ修正案ノ中ノ愚法ノ最モ大ナル修正デナイカト思フ、大藏省ノ所見如何ヲ問フ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) チョット其前ニ意味ヲ大藏省ノ政府委員ノ御參考マデニ申シテ置キタイ、唯今守屋君カラ大藏省ノ政府委員ニ御質問デゴザイマシタガ、此處分ノ意味ニ付テチョット大藏省ノ政府委員ニ御參考マデニ申シテ置キタイ、是ハ實ハ貴族院ノ修正ニナッタ部分ニ關シマスカラ、大藏省ノ政府委員ハ事ニ依ルト突然カト存ジマスカラ私ハ意味ダケ申シマス、此貴族院デ追加セラレマシタ百九十四條ノ二ノ「差額ハ利益トシテ之ヲ處分スルコトヲ得ス」トゴザイマス、此意味デアリマスガ、利益トシテ處分スルコトヲ得ズ、即チ處分スベキ利益ノ中ニハ之ヲ加ヘナイ、處分スベキ利益トハシナイ、斯ウ云フ意味ト同ジデアリマシタ、例デ申シマス方ガ却テ早カラウト思ヒマス、即チ之ヲ配當スルコトガ出來ヌハ勿論デアリマスガ、現行法第百九十四條ニゴザイマス、會社ハ「其資本ノ四分ノ一ニ達スルマテハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其利益ノ二十分ノ一以上ヲ積立ルコトヲ要ス」此中ニ振向ケルコトモ出來ナイデアリマス、ソレカラ又此金ヲ以チマシテ株式ノ償却ト云フコトモ出來ナイ趣意デアリマス、左様ナ意味ニ於テ此「處分スルコトヲ得ス」ト修正ニナッタデゴザイマシタ、單ニ是ハ配當ヲナスコトヲ得スト云フ意味ト違フデアリマスカラ、其點ヲ意味ダケヲ明カニ致シテ置キマス

○守屋此助君 サウスルト「處分スルコトヲ得ス」ト云フコトハ絶對ナシテ如何ナルコトニモ唯空ニ帳面ノ上デ是ダケノ數字デ利益ガアルト云フコトヲ書イタダケテ絶對ニ處分ハ出來ナイデスカ、配當ヲナスバカリデナイ、會社ニ缺損金ガアル、缺損ノ填補ニモ勿論使ハセヌト云フコトニ讀シテ宜イカ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 會社ニ缺損ガアルト云フ御言葉ハ若シ其缺損ヲ營業上ノ損失ト見レバ勿論デアリマス、御述ベニナリマス通りデアリマス

○鈴木總兵衛君 唯今守屋君ノ御質問ノ趣意ニ對シテ政府委員ヨリ御答辯ニナリマシタガ、差金ヲ處分スルコトヲ得スト云フコトニ付テ、若シ一例ヲ舉ゲマス「一ノ工場地面ハ十圓デ買ツタガ、現今ハ五十圓ノ相場デアアル、併シ機械ハ二十萬圓掛ツタモノガ營業上ノ都合ニ依ッテ利益ガナイタメニ此機械ノ缺損ヲ償却シテナイト云フトキニ

一方ノ地面デハ儲ケテ居ル、機械デハ損ガイクト云フトキニ彼此相融通シテ之ヲ以テ補填スルト云フコトガ出來ルヤ否ヤ聽キタイ、モウ一ツ伺ヒタイノハ大藏省ニ關聯シマスガ、今申シマス地面ガ假ニ一箇所ノ工場ガ一坪十圓デ買ツタノガ現今五十圓或ハ百圓スル、斯ウ云フ場合ガアル、計算書ニ於テ金高ヲ上セルコトガ出來マトナルト、營業上デ賃賃價格ヲ見積ルニ付テ大藏省ハ其當時買ツタ直段ノ五圓ナリ十圓デ見積レ、現今ノ相場ヲ用エルコトハ出來ヌト云フ御意見カドウカ、此ニ點ヲ伺ヒタイ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 鈴木君ニ御答致シマスガ、第一ノ點ハ私カラ御答致サウト存ジマスケレドモ、チョット御問ノ趣意ガ不明ノトコロガアリマスカラ尙伺ヒマス、例ニ御引キニナリマシタ機械デゴザイマス、其機械ハ繼續シテ會社ノ營業ノ用ニ供スル財產デアアルノデゴザイマス、改正案ニ依リマス左様ナモノハ償却準備金ヲ積立テ、サウシテ原價ヲ付ケルカ、或ハ年々減損額ヲ差引イテ參ルカ、ドチラカニナルデアリマスケレドモ、其手續ヲ致サヌ場合ノ例デアリマスカラ唯今御引キニナリマシタ例デ見マス、地面ノ方ガ騰貴ヲ致シ、機械ノ方ガ下落シテ居ル、斯様ナ場合ニハ財產全體ニ通ジマシテ差引勘定シテ差額何程カト云フコトヲ定メルモノト解釋致スデアリマス、財產全體ニ通ジマシテ差引勘定シテ差額ヲ定メルコトニナルデアリマス、即チ地面ノ方ノ騰貴シタ額ノ中幾分ヲ以テ機械ノ方ノ損失ヲシタ、其損失ヲ填補スルコトハ出來ルト考ヘマス、財產同土デアリマスカラ左様ニ解釋シマス

○鈴木總兵衛君 ソレハ宜シイデアリマス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) ソレハ宜シイデアリマス

○政府委員(菅原通敬君) 飛入りデアリマシテ少シマゴツキマシテ居ルデアリマスガ、守屋君ノ御尋ノ第一ノ方ノ利益トシテ處分スルコトヲ得ナイトコロノ差額ハ所得金額トシテ計算スベキモノデアルヤ否ヤト云フ御尋デアリマスガ、所得稅法ノ第四條ノ所得算定ノ規定ニ從ヒマス云フト「第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金前年度繰越金及保險責任準備金ヲ控除シタルモノニ依ル」ト斯ウデアリマスカラ縱令利益トシテ處分スルコトノ出來ナイモノデアリマシテモ、此各事業年度ノ總益金ノ中ニ入ッテ居リマスモノデアリマス云フト、現行法ノ規定ノ下ニ於キマシテハ所得トシテ計算セラ

ル、コトニナラウト思ヒマス

○鈴木總兵衛君 稅ヲ課スト云フ……

○政府委員(菅原通敬君) 左様デゴザイマス、併ナガラ元來法人ノ所得ニ課稅ヲ致シマスノハ法人ノ營業上ノ利益トナリマシタモノニ付テ課稅スルト云フノガ立法ノ趣旨デアリマス、利益トシテ之ヲ處分スルコトヲ得ナイトコロノモノニ所得稅ヲ課スルト云フコトハ如何デアアルカト云フ問題ハ或ハ別ニ殘ラウト思ヒマス、ケレドモ兎モ角所得稅法ノ第四條ノ規定ニ從ヒマス云フト、ヤハリ所得稅ヲ課セラルベキモノデアルト信ジマス、解釋上サウナラウト思ヒマスソレカラ第二段ノ方ノ御尋、是ハ營業稅ノ資本金ノ課稅標準ニ計算サレラバ否ヤ此方ノ御尋ニ對シマシテハ全ク御推察ノ通り資本金ノ方ニ計算セラ

ル、コトニナルト思ヒマス、積立金ト云フモノニナッテ參リマス以上ハ……

性質ヲ有スルモノトナテ參リマス以上ハト云フ條件ノ下ニ申上ケテ置キマス、ソレカラ鈴木君ノ御尋ニ對スル此課稅標準タル貨價額ヲドウ計算スルカト云フ……

○鈴木總兵衛君 サウデゴザイマス

○政府委員(菅原通敬君) 地所建物ヲ買取リマスモノノ價額ガドウアリマセウトモ、其當時ニ於テソレガ下落シテ居ラウト、或ハ騰貴致シテ居リマセウトモ、其當時ニ於ケル見積貨價額參ルト云フコト、ナルノデス

○鈴木總兵衛君 尙政府委員ニ確メマスルガ、一方ニ於テハ取得價格ヨリ超ヘヌコトニナル、超ヘタモノハ利益トシテスルコトガ出來ナイコトニナル、一方ニ於テハ假ニ十圓デ買ツタモノハ十圓ト云フ計算ニシテ置クト云フハ商法ノ規定デハ……所ガ大藏省ノ營業稅法ハソレハ商法デドウ云フ規定ガアラウトモ五十圓ナリ百圓ナリ價ノ騰タ以上ハソレダケノ貨價額ヲ取ルガ相當ダト、斯ウ云フニ據リ解釋ニナリマス

○政府委員(菅原通敬君) 守屋君ニ御答致シマシタコトモ、鈴木君ニ御答致シマシタコトモ、現行法ノ解釋ト致シテ、サウ申上ケテ居ルノデアリマスカラ詰リ今度商法ノ御改正ト云フコトガ新ニ出來マス、ソレト營業稅法ナリ、或ハ所得稅法ノ調和カドウアルカト云フコトハ別ノ問題デアリマス

○小川平吉君 サウスルト何デスカ、此商法ノ修正案ガ通過シテ法律トナルト、雙方矛盾スルヤウナコトニナッテ、大變困ルコトニナル、ソレハ矛盾シテモ構ハヌト云フ御考デアリマスカ、ソレデハ餘リ無責任デアラウト思ヒマス、之ヲ通過シタ以上ハ大藏省ニ於テモ法律ヲ直ス考ガアルトカ、何トカト云フコトガナケレバ幾ラ大藏省ト司法省ガ違フト云フデモ、サウ云フ國家ガ無責任ガアッテハ困ルト思ヒマス、ソレハドウ云フ御考デアリマス、ソレヲ伺ヒタイ、サウ云フ無責任デハ人民ガ甚ダ迷惑致シマス

○政府委員(菅原通敬君) 實ハ先程申上ケマシタ通り商法ノ委員會ノ席ニハ初メテ出マシタノデ全ク飛入リデアリマスカラ、其邊ノコトマデハマダ考ヘテ居リマセヌノデアリマス、ソレデ尙能ク研究ヲ致シマシテ、果シテ此通り商法ノ方ガ御極マリニナルト云フコトデアレバ、營業稅法、所得稅法ニ向ッテハドウ云フ風ニ改正シテ行クガ相當アルカ、或ハ現行ノ通り然ルベキカ、或ハドウシテモ改正ヲシナケレバナラヌカト云フコトヲ更ニ追究ヲ致シマス

○委員長(法學博士鳩山和夫君) 今大藏省ノ政府委員ノ言フノモ事實トシテハ無理ハナイト思フノデス、今日初メテ御出デニナッタノデカラシテ、御氣ノ毒ナ譯デアアルカラ事實ヲ聞イテ置イテ判斷ハ委員會ニシテ宜クハアリマセヌカ、餘リ追窮シテ妙ナ所ニマゴツカシテ入込マシテ出テ來ルコトガ出來ナイト……

○長島鷲太郎君 今ノ結果ダケハ能ク御調下ススタ方ガ宜イデセウ

○小川平吉君 吾々ハ原案ヲ通過サセタイ考デアリマスカラ、通過スルニ付テハ其善後策トカ、調和策ハ出來ルダケ御調ヲ願ヒタイ

○委員長(法學博士鳩山和夫君) 大藏省ノ政府委員ニ申シマスガ、御暇ノ都合デ午後ニ更ニ補フ點ガアッタラ出テ來テ又答ヘテ貴ヒタイ思ヒマス

○政府委員(菅原通敬君) 承知致シマシタ

○鈴木總兵衛君 私ハ百四十五條ノ株式ノ金額ノコトニ付テ……

○委員長(法學博士鳩山和夫君) チョット待ッテ下サイ、大藏省ノ政府委員ハ外ニ用ガアルト云フコトデアリマスカラ大藏省ノ政府委員ニ御尋ノ點ダケ盡シテシマッテ、ソレカラ外ニ移ラウト思ヒマスガモウアリマセヌカ

○守屋此助君 吾輩ハナシ

○委員長(法學博士鳩山和夫君) ソレデハ宜シウゴザイマス

○宮古啓三郎君 鈴木君ニ齋藤君ガ答ヘタトコロガ不明デスカラ、其所ヲ確メタイト思ヒマス

○委員長(法學博士鳩山和夫君) サウデスカ、宮古君

○宮古啓三郎君 今鈴木君ノ質問ニ對シテ齋藤君ノ答ヘラレタ點、即チソレハ土地ト機械トノ例デス、土地ノ方ガ代價ガ騰ッテ、機械ノ方ハ大變下ッタト云フ場合ニ對シテ、齋藤君ノ答辯ハ財產ノ價ヲ兩方トモ差引キスルカラ差支ナカラウ、斯ウ云フ今御答デアッタデ、ソレハ何處カラサウ云フ議論ガ出テ來ルコトガ出來ルノデアルカ、私ガ此商法ヲ讀ンデ見テ第二十六條ノ第二項ト云フノデハ「財產目錄ニハ動產不動產債權其他ノ財產ニ價額ヲ附シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス其價額ハ財產目錄調製ノ時ニ於ケル價額ニ超ユルコトヲ得ス」斯ウ云フ風ニ書イテアル、ソコデ會社ノ財產目錄ヲ作ル、何處デモ宜シウゴザイマスガ、會社等ノ財產目錄ヲ調製スルトキニ土地ノ價ハ幾ラト云フデ、土地ヲ見積ッテ財產目錄ノ中ニ書ク、ソレカラ機械ノ代ハ幾ラト見積ッテ機械ノ代價モ財產目錄ノ中ニ書ク、皆必シモゴツタニシテ書クモノデハナイ、區別シテ先ヅ精密ニ書ク會社ナラバ書クデス、サウナルト云フト今齋藤君ノ言フヤウニ片方ノ方ト片方ノ方ト差引計算シテ書クヤウナコトハ、ドウモチトムツカシクハナイカト思ヒマス、此點ガ餘程ヘンデコナモノニナリハセヌカ、今齋藤君ノ御答ノ通りニ法律ノ規定ニ於テ、サウ云フ風ニ解釋サレルノデアリマスカ、御答ヲ願ヒタイ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 御答致シマス、此二十六條ニ依リマシテ財產ノ價額ヲ附スルハ、ソレハ會社ノ都合デアリマセウ、簿記ノ方法ニ依ッテ出來ルノデアリマセウカ、此百九十四條ノ二ノ解釋ハ之ヲ包括的ノモノト見テ解釋ガ付クノデ、詰リ貴族院ノ修正トシテ新ニ加ヘル百九十四條ノ二デアリマス、會社ノ財產ニ附スル價額ニシテ取得價額、製作價額ヨリモ時價ノ方ガ高イ場合ハ其高イ分、ソレカラ高イ分ヲ一括シ、ソレカラ時價ガ製作價額ヨリ廉イモノニ付テハ其廉イ方ノ額ヲ一括シマシテ、其間ニ差引計算ヲシテ、ソレハ差額ト見ルコトガ出來ルノデアリマス、詰リ私ハ百九十四條ノ二ハ完全無缺ナ書方トモ存ジマセヌケレドモ、從ヒマシテ他ニ書方ガゴザイマスレバ、必シモ此原案ノ通りデナクテモ宜イカ存ジマセヌケレドモ解釋ガ此様ナ解釋ヲ許スノデアリマスカラソレデ申上ケタノデアリマス

○宮古啓三郎君 唯今ノ百九十四條ノ二ノ貴族院ノ修正ノ繼續シテ會社ノ營業ノ用ニ供スル財產云々此點ニ付テ……

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) サウデハアリマセヌ、百九十四條ノ二デ新ニ一箇條加ハリマシタ……

○宮古啓三郎君 百九十四條ノ二ノ「第二十六條第二項ノ規定ニ依リテ會社ノ財產ニ附スル價額ガ取得價額又ハ製作價額ニ超ユルトキハ其差額ハ利益トシテ之ヲ處分

スルコトヲ得ス」ト是デスカ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 左様デアリマス

○宮古啓三郎君 此規定ト云フモノハ今齋藤君ノ言フヤウナ風ニ解釋ハチトムツカシカラウト思ヒマス 唯此二十六條ノ二項ト云フノハ先刻私が讀上ゲマシタ 財産目録ヲ作ル上ノ相場付デアリマスガ、ソレノ規定ニ依ッテ會社ノ財産ニ附スルコロノ價額ヲ取得價額、製作價額ニ超スルトキハ其差額ハ之ヲ利益トシテ處分スルコトヲ得ズト云フデケノ規定デアッテ第二十六條ノ第二項ニ對シテ取除ケラ 設ケテ居ルト云フコトニハ一向見エナイ、第二十六條第二項ハヤハリ生キテ居ッテ不動産ノ價額ハ別々ニ作ルベキモノノヤウニ考ヘラル、ノデ、今齋藤君ノ言ハレル論結ガ此條文ニ出テ來ルト云フコトハチヨット了解ガ出來ナイデスカモウ一應……

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 私ノ言葉ガ足ラナカッタノデゴザイマセウ、原案即チ政府案ノ趣意ハ百九十九條ノ二項以チマシテ財産目録ノ記載ノ規定ト申シタノデアッテ財産目録ノ記載スルノニハ斯ウ云フ風ニ記載ラセヨト云フコトノ規定デゴザイマシテ、其結果トシテ此處分スルコトヲ得ズト云フ實體上ノ效力ガ生ズベキモノト、斯ウ云フ趣意デ財産目録ノ書方トシテ規定シテアッタノデアリマス、貴族院ノ修正ハ百九十四條ノ二項以チマシテ、財産目録ノ書方トシテ百九十九條ノ二項規定ヲ設ケルノヲ止メマシテ、實體上ノ規定ト致シタノデアリマス、ソレデゴザイマスルカラ御述ベニナリマシタ通り財産目録ニハ二十六條ノ第二項ノ規定ニ依リマシテ種々記載スルデアラウト思ヒマス、先程申シマシタヤウニ會社ノ都合ニ依リマシテ或ハ一括シ或ハ巨細ニ區別スルデアリマセウ、ソレトハ全ク關係ハナイノデアリマス、其結果——其結果實體上ノ規定トシマシテ此時價ト買入値段トノ差額ハ利益トシテ之ヲ處分スルコトヲ得ズト致シタノデゴザイマシテ、百九十四條ノ二項ハ所謂第二十六條第二項ノ規定ニ依リテ會社財産ニ附スル價額ハ是ハ申上ゲルマデモナク日本人デアリマスルカラ、複數カ單數カ能ク分リマセヌノデアリマスルケレドモ免ニ角解釋トシテハ私が先程御答ヘシタヤウナ解釋ガ付クノデアリマスルカラ左様御承知ヲ願ヒタイ

○高木益太郎君 此財産目録ニ付キマシテデスカ、是ハ例ヘバ株券ナラ株券ヲ會社ガ持ッテ居ル場合ニ、包括的ニ唯書キサヘスレバ宜イト云フ積リデアリマス、或ハ同ジ株券ニシテモ日本銀行ノ株券モアル、日糖會社ノ株券モアル、水産會社ノ株券モアル、其財産目録ノ記載方ニ於テハ日本銀行株何株、此取得價額幾ラ或ハ日糖會社ノ株イクラ、此價額イクラト、斯ウ細カニ記載シナケレバナラヌト云フデアリマセウカ、ソレカラ同ジ株券デモ日本銀行ノ株券ノ非常ニ買入價額ヨリ今日ノ時價ガ上ッテ居ル、ソレカラ日糖水産ノ方ニ於キマシテハ非常ニ下ッテ居ル、此場合ニデスカ、彼是通算シテデスカ、餘ッタモノカラ足リナイモノヲ補フコトヲ許スコトヲ政府ハ認メテ居ルノデアアルカドウデアアルカ此點ヲ一ツ伺ヒタイ、ソレカラモウ一ツハ此財産目録ト云フモノヲ單ニ株主トカ會社ノ債權者デケガ何時デモ閱覽スルコトガ出來ルコトニナッテ居ルガ、現ニ株主又ハ會社ノ債權者デナクテモ將ニ株主タラントシ、又ハ會社ノ債權者タラントスル所謂第三者デアアルケレドモ、此會社ガ有望デアアルカラ株主トナリ、又ハ會社ト取引ヲシヤウト云フモノニ對シテハ少シモ會社ノ内容ヲ知ル途ガナイヤウデアリマスガ、其點ニ付テ法律取調委員會ニ於テハ何カ御協議ガアッタ

コトデアリマセウカ、現ニ米國ノ如キハ公開主義ヲ執ッテ居ル、何人デモ財産目録ヲ相當ノ印刷代ヲ拂ヒサヘスレバ、商工務省其他ノ機關ヲ以テ會社ノ内容ヲ窺知ル途ガ立ッテ居ルデアアルカラ、例ヘバ會社ノ登記所ニ行ッテ買ヘル、或ハ農工銀行ナラ勸業銀行ヘ行ッテ買ヘルトカ、或ハ商業銀行ナラ日本銀行ニ行ッテ其報告書ガ買ヘルト云フヤウナ途ト云フモノヲ開イテ、將ニ會社ノ株主タラントシ、又ハ債權者タラントスル者ヲ保護スルコト云フ方法ト云フコトニ付テハ御協議ハアッタノデアリマセウカ、此點ニ付テモ詳細ナ説明ヲ承ハリタイノデアリマス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 第一ノ御尋ハ財産目録記載方ニ付テノ御尋ネト存ジマス、是ハ高木君モ御承知ノ通りニ先ヅ……其前申上ゲテ置キマスノハ、財産目録ノ記載方ハ現行法ノ規定ハ書イテ居リマセヌノデアリマス唯繼續シ營業ノ用ニ供スル財産目録ニ付テ追加ハ致シテアリマスケレドモ、二十六條ノ改正ハ財産目録ノ記載方即チ如何様ニ記載スルカ、御引例ニナリマシタ株券ヲバ會社キタニ區別シテ書ケルカドウカ、左様ナコトハ改正案トハ全クハ關係ハナイコトデアッテ改正案ハ現行法ト同ジヤウニ見テ居リマス、是ハ實際今日ノ商業界デ用井テ居リマス方法ヲ法律デ禁ズルノデモナケレバ改メルノデモナイ、其通りヲ相當ナルモノト認メテソレニ依ラシムル趣意デアリマスルカラ、左様御承知ヲ願ヒタイ、而シテ其書方ニ付キマシテハ簿記ノ方ハ誠ニ専門外デアリマスカラシテ、ソレハ商習慣ニ依ッテ書クモノヲ相當トシテ商法ハ其方ニハ關係ヲセナイモノト御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラ第二ノ御尋デアリマスガ、株主タラントスルモノト社債權者タラントスルモノトニ財産目録ヲ見セル方ガ宜クハナイカ、其點ニ付テ取調ベシナカッタト云フ御尋デゴザイマシタガ、是ハ取調ハ致シマセヌガ、現行法ニ於テ斯様ナモノニ財産目録ヲ閱覽セシメナイノハ會社ノ財産目録ニ付テ法律上利害ノ關係ト云フモノガナイカラ見セナイノデアアル、タラントスル者ト云フコトハ實際ノ事實カラ見マスレバ範圍ガ一定シマセウカ、表面カラ見レバ誰ガタラントスル者カ分ラヌ、アナタノ所謂公開ナルモノデアアル、會社ノ財産目録ヲ公開スルコト云フコトハ果シテ營業者ガ希望スル點デアリマセウカ、大ニ疑フノデアアル、營業者ハ會社荒シト云フコトヲ非常ニ恐レテ居ル、會社荒シニ好材料ヲ與ヘ、會社ノ商業上ノ秘密ト云フモノガ一切世間ニ現ハレテシマフノデアッテ、斯様ナコトハ營業者ガ必ズ喜ハナイコトデアラウ、法律トシテハ別ニ問題トスル價值ハナカラウト思フノデアリマス

○高木益太郎君 甚ダドウモ司法省ノ政府委員ノ不切親ナル御答辯デアルト思フノデスカ、公開主義ト云フモノハ今世界ノ富ノ最モ發達シタ亞米利加ノ商工務省ガドシドシヤッテ居ル本員カラ亞米利加ニ照會シテ商工務省カラ有益ナル書類ガ來テ居ルガ、罰スルバカリガ取締デナクシテ、平生ノ取締ニ依ッテ刑罰ヲ行ハヌ中ニ第二者モ害セズ、債權者モ害セズ、預金者モ害セナイノガ、第一デアルト思フ、公開主義ハ出來ナイト云フガ貸借對照表ハ公開セヨト云フコトニナッテ居ル、是ハ公開主義ノ一點デアアル然レニ此財産目録ト云フモノハ會社ノ秘密デアアルカラ秘密ニシナケレバナラヌト云フコトハ——殊ニ之ニ付テ審議ヲシナカッタト云フノハ甚ダ不親切ト思フカラ、司法省及、法律取調委員會ガ世界ノ大勢デアアル公開主義ニ對シテ審査シタル書類ヲ委員會ニ出シテ貰ヒタイト思フ

○政府委員（法學博士齋藤十一郎君）ツレハ先程宮古君ノ御質問ニ御答ヲシタ通リデアリマスガ、斯ウ申セバ如何デゴザイマセウカ、會社ノ財産ニ付スル價額ト云フノハ價額ノ總額ノ意味デアル、斯ウ云フ解釋ガ出來ルノデアル、ツレダ先程申シマシタヤウニ此書方ガ單數複數ト云フモノニナルノデアリマスカ、左様ニ解釋ガ出來ルノデアリマス、解釋論トシテ左様ニ解釋シテ戴クノデアリマス

○小川平吉君 サウスルト斯ウ云フコトナリハセヌカ、廉クナツタモノト、高クナツタモノト雙方アルトシテ、サウ云フ會社ハツマリ事實上齋藤君ノ御答ニ依ルト、或ル財産ニ付テハ時價ヲ付スル譯ニナル、所得價額ハ其時ノ價ヲ付スルコトニナル、或ル財産ニ付テハ時價ノ下ツタノヲ付ケルガ、即チ時價ノ下ツタ財産ト上ツタ財産ト雙方持テ居ル會社ニ於テハ、上ツタ財産ハ上ツタ時價ニ見積ルコトガ出來ルト云フ結果ニナル、所ガ或ル會社ハ上ツタ財産ハ上ツタ時價トシテ、帳面ニ書クコトガ出來、下落シタモノヲ持テ居ル會社ハ總テ時價ヲ見積ルコトガ出來ヌト云フコトハ不公平ニナリハセヌカ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 成程數理ノ上ニ於テハ左様ニナルト思ヒマス、併ナガラ元來ノ規定ト云フモノガ、規定ノ結果トシテハ時價ガ所得價額ヨリ下ツタトキニ他ニ上ツタ居ル財産ガアレバ、ソレヲ以テ填補セシメルト云フ趣意アル、ツマリ業務上ノ利益カラ云フテ補充スルニ及バヌト云フガ趣意アリマス、ソレカラ此差益ヲ積立テ、置クコト云フノハ、前々カラ申上グル通りニ是ハ假定的ノ利益デアラカラ配當セシメナイデアツテ、其儘ニシテ置ク、併シ半分上ツテ半分下ツタトキニハ、ソレハ其間ノ融通ヲ許ス、數理カラ申ストサウ云フ傾キガナイコトハアリマセヌ

○政府委員(山内隆三郎君) 百九十四條ノ二ノ財産ノ總價格ヲ以テ其財産ノ總テノ所得價額ト製作價額ノ差益ヲ以テ差益ヲ定ムルト云フコト極メタノハ、ツマリ會社ノ經營ハ要スルニ一年前ノ配當金ヲ本ニシテ經營スルデアアル、或ハ廉イ株式モアリマセウ、或ハ高イノモアリマセウガ、要スルニ一年間ニ卸シタ資本ヲ以テ財産ヲ一括シテ買ツタモノト先ヅ見テ、ソレハ其間ニ差ガアルナラバソレハ差益トシテ保存シテ置ク、各箇ノ財産ニ付テ差益ガアツテモ差益ノ見ルコトハ百九十四條ノ二ノ本旨トスルトコロデナイデアリマス

○長島鷲太郎君 今度ノ改正案ノ四十二條ノ第二項デアリマスガ、營利ヲ目的トスル社團ニシテ本編ノ規定ニ依リ設立シタルモノハ商行爲ヲナスヲ業トセザルモ之ヲ會社ト看做ス」トアリマスガ、之ト類似ノ規定ガ民法法人ノ中ニアリマス、民法二十五條デアリマス、此四十二條ノ第二項ト民法二十五條ノ規定トハドウ云フ關係ニナリマスガ、ソレヲ伺ヒマス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 是ハ一口ニ申セバ第四十二條第二項ノ規定ニ依テ民法ノ二十五條第二項ノ規定ハ間接ニ廢止スルコトニナリマス

○長島鷲太郎君 三十五條ノ規定ハ所謂準用ノ規定デアツテ、民法ノ法人タル性質ヲ失ハヌト思ヒマス、ソレカラ商法ノ規定ニナルト所謂準用ノ規定デアツテ、四十二條ニ謂フコロノ商行爲ヲシナイデモ、營利ヲ目的トスル社團ハ商法改正案ニ所謂商事會社トナルモノト思ヒマスガ、其點ニ付テ政府ノ御考ハドウデスカ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 四十二條ノ二項ヲ規定スルニ當ッテ民法第三十五條ノ關係ニ於テ政府モ實ハ非常ニ苦心ヲシタデアリマス、四十二條ノ第二項ガ成立チマスレバ實際ノ取扱ニ於テハ民法ノ營利法人ト商事會社トハ全ク同一ナルモノトシテ取扱ハレルコトニナルデアリマスカラシテ、立法論ト致シマスレバ或ハ民法ノ第三十五條ノ第一項ト云フモノ、存在ニ付テ問題ガ起ラアラウト思ヒマス、併ナガラ今回ノ修正ハ民法ノ根本的修正ニ手ヲ著ケナカッタノデスカラ、民法二十五條ノ第一項

ニヤハリ此儘尙存續スルコトニ相成リマシテ、民法ノ營利法人ト云フモノハ民法上ノ法人トシテ法律上殘ルデアリマス、併ナガラ四十二條ノ第二項ニ依リマシテ民法上ノ營利法人ハ性質ハ民法上ノ法人デアアルケレドモ、之ヲ會社ト看做ス、斯様ニ致シタデアリマス、實際ノ取扱カラ見マスルト民法ノ法人ト會社トハ全ク一ツ鑄型ノ中ニ入レテ同一種類ノ法人ト見タ結果ニ相成ルト思ヒマス

○長島鷲太郎君 四十二條ノ二項ノ改正ノ趣旨ハ斯ウデアリマセウ、當テ是ハ實際問題トナツテ工業會社ハ商事會社トシテ出來タモノデモ、民法發布後ハ合資會社トモ合名會社トモツカヌモノニナツタ、然ルニ登記ニ付テ實際ノ問題ガ起ツタ、タメニ裁判所ノ非常識ヲ非難サレタ點モアリマシタガ、其結果此法案ノ改正ガ出來タト思ヒマスガ、茲ニ私ガ疑フノハ從來民法ノ法人デア出來タモノハ、合名會社合資會社株式會社ト言ハナイモノハ是ハ此改正案ニ依テ商事會社トナリマスガ、或ハ民法ノ法人ト認メルデアリマスガ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 民法ノ營利法人デアツテ其商號ニ合名會社、合資會社、株式會社、又ハ株式合資會社ト云フ名稱ガ付テ居ラヌモノガアルト云フ御意見デスカ

○長島鷲太郎君 サウスルト無論アリマス、イクラモアリマス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 解釋ニ依リマシテイロノ議論ガアルト思ヒマスガ、民法二十五條第二項ノ規定「前項ノ社團法人ニ付テハ商事會社ニ關スル規定ヲ準用ス」トアリマシテ、商事會社ニ關スル規定ガ其範圍如何ト云フ問題ニ關係スルデアリマセウ

○長島鷲太郎君 是ハ政府委員ノ御取調ヲ願ツタ上デ更ニ質問スルコトニ致シマセウ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 其點ハ實際ノ事實ニ當ッテ取調ヲ致シマセヌケレドモ、例ヲ取調ベテハアルノデス、成程サウ云フ場合モアツタカモ知レマセヌガ、近頃ハ總テ商號ヲ用井ルコトニナツテ居ルデアリマスガ、或ハ實際ニ於テサウ云フモノガアルカドウカ知リマセヌカラ、尙調ベタ上デ御答致シマス

○長島鷲太郎君 マダ質問ガアリマスケレドモ、食事ヲ濟マセテカラニ致シマセウ

○委員長(法學博士鳩山和夫君) 午後一時カラ更ニ開キマシテ、唯今ハ是ニテ休憩致シマス

午後零時十九分休憩

午後一時三十三分開議

○委員長(法學博士鳩山和夫君) 是ヨリ午前ニ引續イテ開議致シマス

○長島鷲太郎君 午前ニ引續イテ伺ヒタイ、ソレハ政府委員ノ御説明ニ依ルト商法四十二條ニ類似シテ居ル民法三十五條ノ規定ハ商法四十二條ノ改正ト共ニ間接ニ消滅スルト云フ御説明ノヤウニ承リマシタ、サウスルト營利會社ニシテ營利ヲ目的トスル會社デアツテ、而シテ商行爲ヲナサヌモノデアツテ、サウシテ從來商事會社ノ規定ヲ準用サレタ社團法人ト云フモノハ、純然タル商事會社デナクテ民法ノ法人ト見テ差支ナイデアリマスガ、及ビ以來營利ヲ目的トスル法人デアリ、而シテ商行爲ヲ爲サヌモノ、設立ノ

手續ト云フモノハ非訟事件手續法中商事會社ニ關スル規定ヲ適用スルモノデアツテ、從前ノ通リ民法ノ規定ヲ適用スルモノデナイ、民法ノ法人登記ニ關スル規定ヲ適用スルモノデナイト解釋シテ宜シウゴザイマス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 其通りデアリマス

○長島鷲太郎君 ソコデ一ツ承リタイノハ、農商務省デモ司法省ノ政府委員デモ宜シウゴザイマスガ、此保險會社ニ一種ノ保險會社ガアリマス、株式ニアラズ、合資ニアラズシテ、所謂相互會社ト稱スルモノデアル、此相互會社ト云フモノハ、ヤハリ今マデハ商事會社ノ規定ヲ準用スルトコロノ會社ニナツテ居タ、其相互保險會社ノ如キモノハ以來之ヲ設立スル場合ニ於テハドウナリマス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 御答致シマスガ、相互保險會社ハ御承知ノ通り、保險業法ノ規定ニ依ツテ設立サレテ居ルモノデアリマスカラ、ヤハリ此改正案施行後ト雖モ、保險業法若クハ此改正案ノ施行ニ伴フテ或ハ改正セラルベキ保險業法ノ規定ニ依ツテ設立セラルベキコトニ考ヘマス、——此保險業法ハ商法ノ改正ニ伴ヒマシテ改正セラルカドウカト云フコトハ私カラ御答ハ出來マセヌガ、此點ニ付テハ實ハ法律取調委員會ニ於テハ希望トシテ決議ヲ致シテ置イタルデアリマス、保險業法ハ商法ノ改正ニ伴フテ改正ヲ要スルモノト認メマシタ、サウシテ其希望ダケヲ決議シテ置キマシタカラ其事ヲ——他ハ農商務省ノ政府委員カラ……

○政府委員(大久保利武君) 商法ノ改正ニナリマシタナラバ、保險業法ヲ改正スルデアラウカト云フコトニ付テ一言致シテ置キマス、商法ハドウ改正ニナリマスガ、今日ハ未ダ分リマセヌガ、商法ノ改正ノ曉ニハ保險業法モヤハリ改正ヲ要スルコトニナルダラウト思ヒマス、種々商法改正ノ結果差當リ條項ナドノ違フコトモ出來又殖エタ點モアリマス、其他ニモ改正ヲ要スベキ點モアリマスカラ、保險業法モイッレ改正ニナルコト、考ヘマス

○長島鷲太郎君 私ノ伺フ必要ナ點ハ、元來此商法ニ合名會社、合資會社、株式會社若クハ合資株式會社ト云フ種類ノ會社ガ規定サレテ居ルデアリマス、然ルニ保險業法ガ制定セラル、ニ當ツテ此商法ノ規定ニナツテ居ラヌ一ノ法人ガ出來テ居リマス、即チ今ノ相互保險會社ノ如キモノデアツテ、此相互保險會社ニ付テハ保險業法ノ規定ニ依ツテ商法ノ規定ヲ準用サレテ居リマシタ、故ニ相互保險會社ノ或ハ支店ヲ設ケルト云フヤウナコトニ付テハ會社ノ規定ヲ適用シテ宜イカ、或ハ法人ノ規定ヲ適用シテ宜イカ、實際家ノ甚ダ困難ヲスル次第、實ハ此相互保險會社ノ如キモノハ全ク商法ノ原則ニ外レタ一ノ會社組織デアルト信ジマス、或ハ今日保險業法ノ規定ノ上カラ斯様ナ特別ナ組織ノモノヲ設ケル必要ガアルカハ存ジマセヌケレドモ、併ナガラ此點ニ於テハ商法ト相互保險會社トノ間ノ關係ノ聯絡ガ付テ居ラヌト信ズルデアリマス、私ガ特ニ政府委員ニ伺ヒタイノハ農商務省ノ政府委員ニ伺ヒタイノハ此ノ如キ商法ノ四十二條第二項ノ規定ガ出來テ、將來民法三十五條ニ依ツテ商事會社ニ準ゼラレタ法人ガ全ク商法ノ支配ヲ受ケル商事會社トナリ、今マデ準ゼラレタ會社ガ今マデノ商事會社ニアラズシテ、商法ノ規定ニ依ル純然タル商事會社トナルト云フコトニ移行キマスレバ、此相互保險ニ關スル規定ト云フモノモ大ニ變更サレナケレバナラヌト信ズルデアリマカ、他ノ

點ハ措テ特ニ相互會社ニ付テ農商務省ノ政府委員ニ伺ツテ置キマス

○政府委員(大久保利武君) 御説ノ如ク相互保險會社ハ營利ノ普通他ノ保險會社ト違ヒマシテ、特殊ナ性質ヲ持ツテ居ルモノデアリマシテ、サウシテ他ノ保險會社ト同一ニ其性質ヲ見ルコトノ出來ヌ箇條モアリマスノデ、種々其性質ニ付テハ意見モアリマス、保險業法ヲ改正スル上ニ付テハ十分ソレ等ノコトモ調査致シテ其調和ヲ取ツテ往ク積リデアリマスガ、ソレダケ御答致シテ置キマス

○長島鷲太郎君 尙一ツ確メテ置キタイと思ヒマス、ソレデハ此商法ノ改正ガ此ノ如クニ實施サレテ、而シテ保險業法ノ改正セラレザル間ハ相互會社ノ設立ノ申請ガアツテモ、ソレハ御許シナラヌト云フ御方針ニナリマスガ、ナゼナレバ從來ノ規定ガ全ク變化致シマシテ此度ノ改正案ニ依ツテ見レバ、此ノ如キ會社ハヤハリ商法ニ依ツテ商事會社ノ手續ニ依ツテ設立サセルト云フコトニナルデアリマスカラ、從來ノヤウニ相互保險會社ガ民法法人ノ設立ノ手續ニ依ルコトガ出來ヌヤウニナリマスカラ、サウ云フヤウニ御方針ニナルコトデアリマスガ、其點モ併セテ伺ヒマス

○政府委員(大久保利武君) 御答致シマスガ先刻申上ゲマシタ如ク商法改正ノ曉ニハ保險業法モ改メラル、コトニナルダラウト考ヘマスカラ、ソレマデノ間ハ或ハ特ニ此間ニ於テ相互保險會社ノ如キモノ、設立ニ對シテ認可ヲ致ス手續キニ付テハ差支ナカラウト考ヘテ居リマスガ、此商法改正ノ結果ニ依ツテ、保險會社ノ設立ニ付テハ十分攻究ヲ重テ保險業法ノ改正モ成ベク急ニスル必要モ出テ來ヤウト思ヒマス、併ソレマデノ間ハ現行ノ通り差支ナイ積リデアリマス

○長島鷲太郎君 ソレデハ他ノ質問ニ移リマス、私ハ會社全般ニ付テ政府委員ニ伺ヒタイ、唯今申述べタヤウニ日本ノ商事會社ノ規定ト云フモノハ殆ド統一ヲ缺イテ居ル、一面ニ於テハ商法ノ規定スル合名會社、合資會社、株式會社、合資株式會社ト云フモノガアツテ是ガ所謂商法ニ於ケル商事會社ノ大要ニナツテ居ル、然ルニ他ノ一面ヲ見ルト保險業法ニ於テ殆ド性質ノ分解ニ苦ムヤウナ相互保險會社ノヤウナモノガアリ、唯今商法ノ改正ニ付テモ保險業法ヲ改正シナケレバナラヌト云フ程度ニ達シテ居ル、而シテ現行ノ商法ハ獨逸ノ商事會社ノ規定ヲ適用シタモノト思ヒマスガ、殆ド其現行ノ商事會社ニ於テハ唯獨逸ニ此ノ如キ制度ガアルカラト云フテ其儘採用サレタモノデ、殆ド日本ニ於テハ適用セラレヌヤウナ必要ナキモノマデモ——必要ナキモノト云フハ過當ノ言カ知リマセヌガ、餘リ適用セラレヌモノモアルト信ズルデアリマス、例ヘバ株式合資會社ノ如キ、或ハ僅カナモノハゴザイマセウガ、併ナガラ株式合資會社ト云フヤウナモノ、必要ヲ感ズル、其會社ガ組織サレタト云フコトハ餘リ聞カヌデアリマス、是ニ反シテ獨逸法系ノ今日實際上ノ有様ハドウカト云フコトハ餘リ聞カヌデアリマス、多額ノ資本ヲ集ムルニ必要デアリマスケレドモ、此株式會社ト云フモノハ形式ニ拘泥スルコトハ日本ニ於テモ外國ニ於テモヤハリ同例ガアル、爲ニ漸次株式會社ノ適用ト云フヨリハ、獨逸法系ノ國ニ於テハ所謂有限責任會社ト云フ株式會社ニ類似シタ法人組織ノ適用ヲ見ルヤウニナリマシタ、目下此等ニ關スル組織ノ會社ト云フモノハ獨逸國ナドニ於テハ大變多イヤウニ承知致シテ居リマス、又多額ノ資本ヲ集ムルト云フ株式會社ヨリ左程資本ヲ持タル株式會社ニ於テ「シンデケート」ノ組織ノ會社ト聯絡ヲ

取ルト云フ方が外國ノ實際ニ於テ漸次其必要ヲ認メテ居ルヤウニ承知シテ居リマス、又有限責任會社ノ如キハ株式會社ニ似テ居テ、サウシテ株式會社ノ如キ形式ニナラヌト云フ點ニ於テ、非常ニ實際ニ適合スル法人會社組織ト致シマシテ漸次發達シテ居ルヤウニ思ヒマスガ、斯ウ云フ點ハハリ法典取調ノ際ニハ十分攻究ニナッテ居ルノデアリマス。カドウカ伺ヒタイ、尙伺ヒタイノハ日本ニ於テ株式會社ト云フモノ、數ハ凡ソドノ位アリマスガ、其點モ御調ベニナッテ居レバ承知シタイ考デアリマス、

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 御答致シマス、第一ノ御尋ニ對シマシテ御答致シマス、政府ニ於キマシテモ長島君ノ御述ベニナリマシタヤウニ外國ニ於キマシテハ有限責任會社ノ立法例モアルト云フコトハ存シテ居リ、且ツ、取調モ致シタノデアリマス併ナガラ前々カヲ申上ゲマシタ通り今同ノ改正ハ主トシテ現行商法中ノ規定デアリマシテ、實際ノ事情ニ適シナイモノヲ成ルベク適スルヤウニ致シタイト云フ趣意カラ其改正ヲ企テマシタ次第デアリマシテ、若シ是が根本的修正ト云フコトニ相成リマスレバ、長島君ノ御述ベニナリマシタ、有限責任會社ノ組織ト云フコトモ無論重大問題ノ一ツニナルデアラウト存ズルノデアリマス、唯ツレガ唯今申上ゲルヤウナ事情ヲ別段問題トナラナカッタノデアリマス、或ハ此組織ニ付キマシテハ將來或ハ之ヲ適用スルコトヲ必要ト認メマシル時期が到來スルカモ存ジマセスト思フノデス、唯今同改正ノ際ニハ誠ニ遺憾デゴザイマシタケレドモ、其點マデハ改正事項ノ中ニ加ヘテゴザイマセヌデシタト云フコトヲ御答スルヨリ外ナイノデアリマス、又「シンデケート」ニ至リマシテハ是ハ吾共ノ承ッテ居リマシルトコロデハ、其發達ハ誠ニ近來ノコトデゴザイマシテ、是ニ付キマシテハ有限責任會社程ニハ致シテ居リマセヌ、法律關係トシテハ調査ハ致シテ居リマセヌノデアリマス、ソレカラ第二ノ御尋ニ御答致シマスガ、株式合資會社ノ數ハ御述ベニナリマシタ通り誠ニ類ガ少イノデアリマシテ、昨年ノ六月三十日現在ノ會社ノ數ハ二十九シカゴザイマセヌ、此二十九ト云フ數ハ各種類ノ會社ノ數一萬九千八百五十二對シマシテ、誠ニ微々タル數デアルト云フデケラ申上ゲテ置キマス、尙午前中長島君ノ御尋ニ對シマシテ、尙調ベテ御答ヲ致スコトヲ申シテ置キマシタ點ニ付キマシテ補テ置キタイノデアリマス、民事會社ノ登記デゴザイマスガ、是ハ現今ハ其民事會社ノ商法中ニ組織ノ種類ニ從ヒマシテ、必ズ合名會社、株式會社等ノ文字ヲ用井サセルコトニ致シテアリマス、併ナガラ前ニハ其名稱ヲ用井テ參ッテ登記ノ申請ハ受理シナカッタコトハ長島君ノ御述ベノ通りデアリマス、是ハ間違ッテ居リマシタノデアリマシタノデゴザイマス、ソレサウ相成リマスルト、元ト名前ヲ用井シメナイデ登記ノ申請ヲサシタノハ誤ッテ居ル、ソレハドウスルカト申シマスト是ハ從來ノ分モ變更登記ヲサセマシテ變更スルコトニ致シマシタ、大分改メタノデゴザイマスガ、尙今日ニ於キマシテモマダ名稱ヲ改メヌノモアリマスカラ、是ハ變更登記ノ手續デ改メルヤウニサウセヤウト存ジテ居リマス、此點ヲ補ッテ置キマス

○藤代市之輔君 唯今御答ヘニナリマシタ、會社ノ數デスガ、私ノ聞クノハ最近三年位ノトコロデ宜シイ、潰シタ數及其原因——破産デスナ、破産シタル會社ノ數、ソレハドウ云フ譯カト云フト、委員ノ側テ取調ベルト、重役ニ對スル罰則ノ規定ハ必要ハナイト云フ政府委員ノ方デハ大變ニ必要ガアルヤウニナッテ居リマスカラ、其原因ヲ調ベ

マスルト云フト必要ガアルナイト云フ材料ニナラウト思ヒマス、ソレヲ調ベルト出來マシレバ調ベテ戴キタイ、サウシテ表ニシテ出シテ貰ヒタイ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 過去三箇年分ノ會社ノ破産シマシタ數デスナ

○藤代市之輔君 其原因株式會社合資會社ノ——主ニ株式會社……

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 若シ分リマスレバ調ベマス

○長島賢太郎君 私ハ會社ノコトヲ御尋シタイ、今回ノ改正案ヲ見マスルト云フト株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトガ出來ヌヤウニ見エテ居リマス、私ノ問ヒタイノハ五十圓ト云フ金額デハナイ、詰リ一部ノ拂込ニ關スルコトニ付テ伺ヒタイ、株式會社ニ於テモタシカ株式ヲ引受ケル外ニ別段「ローン」等ヲ以テ出資スル、場合ガアルト信ジテ居リマス、其例ヲ申シマス、或ル專賣ノモノ、製造販賣權ヲ以テ出資スル、此場合ニ於テ特許權ヲ持ッテ居ル者ガ特許權ヲ出シテ之ヲ株式ニ充テル、他ノ者ハ之ニ對シテ株式會社ヲ設立スルト云フコトモアル、又或者ハ會社ガ他人ノ專賣權ヲ買取ル——重ニ工業デアリマスガ、專賣權ヲ買取ッテサウシテ株式會社ヲ設立サセルト云フコトハ實際ニ於テ出テ來ルノミナラズ將來ニ於テモ工業ノ勃興ト共ニ起ル問題デアラウト思ヒマス、斯ウ云フ場合ニ專賣特許權ヲ買取ッテ株式會社ヲ設立スルト云フ場合ニ於テ普通ノヤハリ株式ヲ以テ其特許權ノ價格ニ充テル場合ガ多イノデアリマス、此場合ニ於テ充ツル方法ハドウカト云フト、例ヘバ會社ガ株式ハ四分ノ一ノ拂込デアッタトキニハ、ヤハリ四分ノ一ノ拂込シタ株式ヲ集メテサウシテ其價格ニ充ツル專賣特許權ヲ持ッテ居ル人ニ代價ニシテ拂フノデアル、此場合ニ其工業會社ガ十分發達スベキ見込ヲ持ッテ居リマスレバ此ノ如キ未拂込ノ株式ヲ以テ充テマシタコロガ一向差支ナイノデアリマス、一朝此工業會社ト云フモノガ悲運ニ陥ルトキニ於テハ、ツマリ專賣權ヲ賣タモノハ、ソレニ依ッテ未拂込金額ニ對スルトコロノ義務ヲ負擔ヲシナケレバナラヌト云フコトガ常ニ問題ニナルノデアリマス、斯ウ云フ場合ニ於テ現行商法ノ御精神ハツマリ株式拂込ノ不平均ヲ御認メニナルノデアリマスガ、言ヲ換ヘテ申シマスレバ或ル一ノ會社ノ株式ニ於テ一株ハ未拂込ノモノト一株ハ全額拂込シタモノト此二様ノモノモ御認メニナル一體方針デアリマスガ、ドウカ吾共ノ記憶スルトコロニ依リマスルト英國アタリノ會社ノ法律規定ハ株式ノ平均ト云フコトガ原則ヲシク見エマスガ、一體今マデノ——改正案デナク現行法ノ解釋ハ學者ノ間ニ二様アルト思ヒマス、此株式拂込ノ平均デナクテモ宜イト云フコトハ學者ノ間ニハ隨分議論アルコトデ、唯實際此裁判所ノ登記手續ニ於テ株式不平均ノモノハ登記ブセヌタメニ已ムラ得ズヤハリ未拂込ノモノハ總テ株式ガ未拂込トシテ置カケレバナラヌト云フコトニナッテ居リマスガ、此事ハ唯私ガ疑義ヲ挾ムノミナラズ、元來日本ノ會社ノ發達ト云フ上ニ於テ非常ニ影響アル問題ト考ヘマスカラ、若シ此改正案取調ベノ際斯ウ云フコトガ問題トナリ、又ハ此コトニ付テ御解決ガ出來テ居リマスレバ、私ハ其教ヲ請ヒタイノデアリマス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 御答致シマス、唯今御質問ニ相成リマシタ法律上ノ疑義ニ付キマシテハ、其疑義ノゴザイマスコトハ仰セニナリマシタ通りデアリマス、說モ兩様ゴザイマセウト思ヒマス、サリナガラ政府ガ改正案ヲ取調ベマシタ場合ニ

於キマシテ、解釋ト致シマシテハ、長島君ノ御引用ニナリマシタ特許專賣權ノ如キ、即チ金錢以外ノ財産アリマス、之ヲ以テ出資ノ目的ト致シマシタ場合ニハ仰セノ通りニ一定ノ株式ヲツレニ割當アルノデアリマス、其場合ニ會社ノ金錢拂込ノ方ガ四分ノ一拂込アルト致シマスルトキニ於キマシテ、其金錢以外ノ財産ニ割當アル株式ノ拂込モ四分ノ一デナケレバナラヌ、斯ウ云フ解釋ハ採リマセヌノデアリマス、取ラズシテ此トキハ、金額拂込ノコトニ致シテ一向差支ハナイ、而シテ登記ニ於キマシテモ、其登記ハ出來ルモノト信ジテ居タノデアリマス

○長島賢太郎君 宜シウゴザイマス、ツレハヤハリ同ジヤウナモノデ政府ノ御説明ヲ請ヒマス、ツレハ從來此未拂込ノ株ガアル場合ニ於テ、例ヘバ第一回ノ拂込ガアデ、或ル場合ニハ五十圓トスルト十二圓五十錢ノ拂込ノアル場合ニ於テ、經濟界ノ狀況ガ其次ノ拂込ヲ株主ニ強要スルコトガ出來ナイト云フ事情ガアル、此場合ニ於テ或ハ新株ヲ募集スルト云フコトガアル、サウシテ此場合ニ於テ一方ニ於テハ株式ノ未拂込ト云フ株ガ出來、一方ニ於テハ或ハ新株ヲ以テ其方ガ全額拂込ノ出來ルト云フ場合モ起ッテ來ヤウト思フ、或ハ私ガ餘リ立入ルヤウデアリマスガ、此場合ニ於テ同ジ會社ノ株式ガ——チヨット私ノ言ヒ方ガ惡ルカッタノデアリマスガ、例ヘバ前ノ株ノ方ガ二回ノ拂込ヲシテ居ル、二十五圓拂込シテ居ル然ルニアトカラ募ツタ新株ニ付テハ一回ノ拂込ヲシテ居ル、斯ウ云フ場合ニ於テ同ジ會社ノ株ニ二樣ニ出ル場合ガアルカモ知レヌト思フ、若シ齊藤政府委員ノ御説明ノ如ク原則トシテ株式平均ト云フ說ヲ採ラヌコトニナルト云フト唯今ノ事實特許權ヲ出資シヤウナ場合ニ於テ御説明ノアッタヤウナ株式平均デナクテモ構ハヌト云フ說デアルト、斯ウ云フ場合モヤハリ許サナケレバナラヌト云フコトニナル、モウ一ツ例ヲ舉ゲテ見ルト、二回三回ト御拂込ヲ促シタ場合ニ於テ、一回ノ拂込ガ出來ナイテ二回ノ拂込ダケガ出來タト云フ場合ニ於テ、同ジ會社ノ株式デ二回ノ拂込ト二回ノ拂込ノモノガ登記サレルト云フコトモ實際ニ於テハ出來テ來ヤウト思ヒマスガ、ヤハリ株式平均デナイト云フ原則ハ此場合ニモ適用シテ差支ナイモノデアリマスガ、之ヲ承ツテ置キタイ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) チヨット唯今ノ御質問ハ私御問ノ趣意ヲ誤解シテ居ルカ知レマセヌケレドモ、二百十條ニ依リマス新株募集——

○長島賢太郎君 新株ノ方ハ私ノ言違ヒデアッタカモ知レマセヌ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 然ラバ分リマシタ、株式會社ノ株式ノ金額ハ必ズ一定デナケレバナラヌノデアリマスケレドモ、拂込金額ハ必シモ一定トスルコトハ必要トシマセヌノデス、新株募集ノ場合ニ於テモ左様ニ相成リ、且會社ノ合併ノ場合ニ於テモ左様ニ相成ルト思フノデス、是ハ司法省ト致シマシテハ金額ハ必シモ拂込ガ常ニ一定シテ居ルコトヲ必要トセヌト云フコトニ解釋シテ居リマス

○關直彦君 チヨット今ノ質問ニ關聯シテ居ルコトデ伺ヒマスガ、改正ノ案ニハ株券額ガ五十圓トナッテ現行商法ノ二十圓ノ株式ト云フモノハ止メニナッテ居リマス、其理由ハ私モ略々伺ヒマシテ承知シテ居リマスガ、實際經濟界ノ模様ニ徴シマスルト、斯ウ云フ場合ガアルノデス、五十圓券ニシテ第一回拂込ノ四分ノ一拂込シテ置クト、或ハ其株式ハ後ニ拂込ノ責任ヲ非常ニ氣ニシマシテ相成レバ、金額ヲ拂込シテシマッタモノニ

シテ置イテ、サウシテ責任ハ出シタ金限リデ拾アレバツレデ宜イト云フコトデ安心シテ居ラレバ、五十圓ニシテ四分ノ一拂込シテ置クト云フト、會社ノ狀況ニ依テハ金額ヲ拂込マセラレバハ甚ダツライ、斯ウ云フコトヲ懸念シテ居ルモノガアリマシテ、其結果トシテ二十圓ノ株券ニシテ一時ニ拂込シテ置イタ方ガ誠ニ安心デアルト云フヤウナ向モ多少見エル、ツレナラバ五十圓トシテ五十圓全額拂込シテ、サウシテ持株ノ數ヲ減シテ置ケバ宜イデヤナイカト云フ說モアリマスケレドモ、ツレハ事實ニ於テハ誠ニヤリニクイ話デ、五十圓以下ノ株ヲ禁ジテ全額五十圓ヲ拂込マセルト云フコトニナリマス、殆ド今日デハ會社ノ成立ガムツカシイノデ、二十圓ト云フト十二圓五十錢ヲ拂込ムト二十圓ヲ拂込ムトデハ僅ノモノデアリマス、寧ロ二十圓ニシテ置イテ全額ヲ拂込シタナラバ却テ其方ガ持チ易イト云フ狀況ガアリマスガ、ドウシテモ此二十圓ト云フ株式ハ絕對ニ出來ナイデアラウカ、或ハ改正案ノ修正ノ模様ニ依テハ現行法ニ復活シテ此二十圓ノ株式ヲ認メテ差支ナイト云フ御意見デアリマスガ、伺ヒマス

○鈴木總兵衛君 是ニ關聯シタコトデアリマスカラ——唯今ノ株式ノ件デアリマスガ、常ニ政府ノ意見トシテ少額ノ株式ハ餘リ宜シクナイト云フノデ五十圓トスルト云フコトデアル、私モ此五十圓ト云フコトガ必シモ惡ルイトハ認メナイ、併ナガラ世間ニ起ル會社ニハ必シモ假ニ五十圓株デ即チ百萬圓ノ資本ノ會社ヲ拵ヘテ五十圓ノ株金ヲ全額拂込ムト云フ必要ハナクテモ世間體ヲ造ルタメニ、即チ會社ノ資本ノ多キヲ見セルトメニ、サウ云フコトニシテ其實二十五圓拂込シテ、アトハ何時拂込ムカ見込ガナイト云フ唯世間ヲ瞞著シテ資本ノ多キ名ヲ貪ルト云フモノガ往々アルノデス、是等ハ政府ハ二十圓全額拂込シタ會社ヨリ安全ナリト云フ御考カラ之ヲ許スノデアアルカ、此二十圓全額拂込シタ會社ハ許サヌガ、私ハ前申シタヤウナ會社ヨリモ民間ノ實際カラ見テ寧ロ此二十圓全額拂込シタ會社ノ方ガ實力ニ於テモ安心ガ出來ルト思フノデアル、ツレデ五十圓トシテ十二圓五十錢拂込ミ二十七圓五十錢殘シテ居ルト云フ其儘ニシテ置イテ經濟上大シタ變動ハ起ラナイカ、名前ヲ出シタモノガ拂込ムベシト云フハ法律上ノ道理デアリマセウガ、是マデ破綻スル會社ハ多ク名前替ヲシテ無資産ノ者ニ押付ケテ責任者ハ脱レルト云フ者ガアル、ツレガタメニ破綻會社ノ整理ノ困難ガ多イノデアリマス、是等ニ對シテ政府ハ是ガ安全ナリトセラレタ理由ヲ伺ヒタイノデアリマス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 先ツ關サシノ御質問カラ 御答致シマスガ、株式ノ金額ニ付キマシテハ政府ハ株主ヲシテ自己ノ權利ノ何タルヤヲ辨ヘ、其責任ノアルトコロヲ知ラシメ、又始メテ株式ノ申込ヲナスモノヲシテ漫リニ投機熱ニ陷ラナイヤウニサセルトメニハ、二十圓ヨリ五十圓ノ方ガ宜シイ、今日ノ經濟狀態カラ見マシテ二十圓ト致シテ置ク必要ガナイノデアリマス、又實際ニ於キマシテモ二十圓一時ニ拂込シテ株式ヲ發行スルト云フ事例ハ乏シイノデアリマス、是ハ私共ヨリハ却テ詳シク御承知ト存ジマスケレドモ、吾々ノ調デハ誠ニ少イノデアリマス、左様ナ事實カラ致シマシテ此二十圓ト云フモノヲ認ムル必要ハナカラウ、斯ウ云フ理由ガ一ツアッタノデアリマス、加之此前申上ケマシタガ、唯資格ガゴザイマスルタメニ始メ四分ノ一拂込デアッタモノヲ更ニ七圓五十錢拂込マシメテ、サウシテ二十圓ニ切下ケテ、無記名式トシテ轉々スルト云フコトヲヤリタガ、是ガ最初ニ二十圓ト云フ如キ少額ノ株式ヲ社會ニ募集スルト

同ヤウニ投機熱ヲ惹起スルノデアリマスカラ、旁々アテ害ノナイ規定ナラハ未ダ宜イガ、先づ第一疑義ヲ招キ、而シテ害モ伴フデアリマス、ソレ故ニ削ルガ宜シトシテ削ッ
タノデアリマス、ソレカラ鈴木君ノ御尋ニ付キマシテモ大概今ノ趣意ヲ御了解下サルコト
ト思ヒマスガ、如何デスカ

○關直彦君 今ノ投機熱ヲ除クト云フコトハ却テ二十圓ノ方ガ投機熱ガ上ラヌノデ
ス、ト云フモノハ二十圓全額ヲ拂込シテ持ツモノハ實際金ヲ持ッテ居ルモノデナケレバ
持タナイノデアル、然ルニ五十圓トスルト彼ノ四十年ニ行ハレタ如ク二圓五十錢ノ證
據金ヲ以テ權利株ヲ爭フコトナリ、拂込ニ應ズル資力ノナイ者デモ千株モ二千株モ
申込ミ、證據金ヲ拂ッテ置ク賣拂ッテシマフト云フノデ、會社ノ設立ニ大ニ害ガアル、ソレ
ヨリ二十圓金額拂込ト云フ方ガ實際懷ニ金ヲ持ツモノデナケレバ拂込メナイカラ、持
タナイノデ、安全デアルト思フガ、却テ政府ハ二十圓金額ヨリハ五十圓ノ方ガ安全ト云
フ御考ハドウ云フ譯デスカ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 是以上ハ議論ニナルト思ヒマスカラ政府ノ
意見ハ斯ウデアルト云フコトニ御諒承ヲ願ヒマス

○高木益太郎君 モウ一ツ御尋シタイコトガアリマスガ、商事會社ノ弊風ノコトニ付
テ政府ノ方針ハ嚴罰主義ヲ採ッテ居ルガ、事ノ起ラヌ前ニ弊害ノ生ジナイヤウナ方法
ニ付キ、亞米利加ノ公開主義ノ如キニ付テハ御調ニナッテ居ラヌヤウデアリマス、何ニカ
會社荒シト云フ途方モナイ理窟ヲ以テシテ、米國ノ商工務省ノ如キ數千人ノ會社
監督人ヲ設ケテ、イロ／＼ヤッテ居ルト云フ先進國ノ事情等ニ付テハ御調査ガナイ、其
事ハ調ベテ居ラヌナラバ已ムラ得ヌガ、尙根本ニデス一人ノ重役ガ數會社ノ重役ヲ兼
ネル、是ハヤハリ會社ニ弊風ノ生ズルコトヲ除クニ付テデス、非常ニ神樣見タイニ三
六臂ノモノナラヌモ角、先ツ普通ノ人間ガ司法省ノ局長モ、農商務省ノ局長モ、海
軍ノ局長モ、陸軍ノ局長モ兼ネルト云フコトハトモ出來ナイデアリマスカラ、少ナクモ
三會社トカ五會社トカ以上ハ兼ネルコトガ出來ヌト云フコト、即チ會社荒シスル人間
ヲ除クヤウ云フヤウナコトハ法律取調委員會ニ於テドウ云フ説ガ出テ、ソレニ付テナセサ
ウ云フ主義ヲ採ラヌコトニナツタカ、現ニ本員ガ一昨年第二十五議會ニ於テ二會社以
上ノ取締役兼職ハ出來ヌト云フ案ヲ出シタガ、某男爵ハイロ／＼ソレ等ノ事情ニ鑑ミ
テカ、大分兼職ヲ罷メタト云フ事實ヲ見タノデアリマス、然ルニ政府ハ今度此兼職ヲ
禁ズル制限ガナイノデヒヨ／＼元ニ戻ッテ、芝居ノ會社ノ重役マデ兼職スルヤウニナツタ、
此點ニ付テ司法省ノ御意見竝ニ法律取調委員會ノ審議ニ上ツタ顛末ヲ聞イテ置キ
タイト思ヒマス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 重役兼業ノコトニ付キマシテハ勿論高木
君ノ先年御提出ニナリマシタ商事會社ニ關スル法律案ト云フモノハ、ヤハリ取調會
議題トナリマシテ逐條審議ヲ致シマシタ、是ハ確ニ事實デアリマス、而シテ其前ニ於テモ
司法省ニ於テハ取調會ノ準備事務ヲ取扱ッテ居リマシタガ、ソレニ於テモ逐條詳細ニ審
議ヲ盡シマシタ、私ハ重役兼業ノコトニ付テ之ヲ是トスル議論ハナイデハナカッタ、少數
デハアリマシタガ、議論ハアリマシタ、又外國ノ立法例ヲ引用スル人モアリマシタ、併ナガ
ラ民法ノ上ニ於テ、罰則ノ上ニ於キマシテ、制裁ヲ嚴ニ致シテ苟モ其責任ニ違背スル行

爲ガアッタナラハ、制裁ヲ加ヘル、此方ヲ嚴ニスルナラハ事實ニ於テ制限サルノデアル、
機械的ニ法律ガ三會社ノ重役ヲ兼ネルコトヲ得ズト書クノハ如何デアラウ、實ニ人ニ
依ッテハ非常ニ技倆ヲ持ッテ居ル人十會社ノ重役ヲ兼ネテ事實爲シ得ル場合ガアルカモ
知レナイ、尤モ前申シマシタ通りニ取締役ノ代表者ト代表權ヲ持ッテ居ナイモノト區
別ヲ置ク以上ハ持ッテナイ者ノ中ニハ法律顧問モ入リマセウ、技術上ノ顧問モ入リマセ
ウ、顧問ト云フ取締役ノ中ニ在ル者ハ十モ二十モ兼ネテ差支ナイト思ヒマスカラ、事實
上其人ノ技倆ニ任シタ方ガ却テ實際ノ事情ニ當該マルノデアル、サウシテ其人ガ民事
上ノ責任ヲ怠リマスレバ制裁ヲ以テ之ニ臨ミ、又刑事上ノ責任アレバ之ヲ罰スル、若シ
盲目判ヲ押セバ過失ニ依ッテ或ル行爲ヲ爲シタノデアルカラ過失デ云々ト云フ規定ニ
當ル、斯様ナ理由カラアノ過失云々ノ規定モ入ッテ譯デアリマス、ソレデ高木君ノ御希
望ハ明文ニハ現ハレテ居リマセヌガ、趣意ニ於テハ入ッテ居ルト申シテ間違ッテ居ナイト存
ジマス

○片岡直溫君 本員ハ商法第四百十七條ニ付テ事實ニ基イテ御尋致シマス、一ハ
保險金額仕拂ノ義務ハ、一箇年、ソレカラ保險料返還ニ義務ト云フ文字ガ加ヘテア
リマスガ、是ハ至極良イコト、存ジマス、然ルニ一方近頃ハ保險事業ノ中ニ利益配當
付ト云フ保險ガ流行シテ居リマス、之ヲ七箇年若クハ八箇年目ニ極メテ配當スルト
或年限ガ遭遇シタトキニ配當スルノト、種々アリマスガ、免ニ角利益配當付ト云フコト
ハ多クノ會社ニ存シテ居ル、此利益配當ノ受取ヲシナイ、又仕拂フスルト云フコトニ付
テ、相當期限ガアリマセヌト、帳面ノ始末ガ付カナイデアリマス、最モ利益配當ト云フ
コトニ對シテハ、保險料仕拂ト云フコトヲ保險料仕拂ハナケレバ多クハ契約ガ成立タ
ナイノデアル、保險料仕拂ハズニ契約ノ成立ツコトハ殆ドナイ、唯「オープンポリシー」ガ
何ラカデ特約ノ場合ヲ見タモノト、是ハ解釋シテ宜シイデアリマスガ

○政府委員(山内確三郎君) 第一ノ問題ニ付テ御答致シマス、利益配當ヲ保險契
約者ニ、或ハ被保險者ニ保險會社ガ仕拂フト云フ例ハ能ク承知シテ居リマスガ、茲ニ
突然時効ニ關スル規定ヲ四百十七條ノ中ニ置クト云フコトニナリマスルト如何ニモ形ガ
オカシイ法律デサウ云フコトハ豫想シテナクシテ、寧ろソレハ實際ノ慣例ニ任セルコトニシ
テ、利益配當ノコトハ規定ガナイカラ突然時効ノコトヲ規定スルノハドウデアリマセウカト
云フコト、ソレカラモウ一ツハ利益配當ハ保險契約者トノ間ニ契約ガ出來ル、其契約
ハ固ヨリ有效デアリマスガ、其契約ヲ爲ス上ニ他日消滅期間即チ終期ト云フモノハ契
約ニ依ッテ定メタラソレデ宜カラウ、サモナケレバ商法一般ノ時効ノ規定ニ依ルト云フ趣
意デ四百十七條ニハ書イテナイノデアリマス、第二ノ御尋ノコトハ少シ分リ兼ネマシタ
ガ……

○片岡直溫君 第二ヲ繰返ス前ニ唯一ノ御答ニ付テ尙申シマスガ、商法中配當スル
規定ガナイカラト云フコト、一般ノ法則ニ基イテ一般ノ時効ニ依ッテ宜シイト云フコトノ
御說明ニナリマシタガ、凡ソ會社トシテ配當スルコトノ規定ハ別段商事會社ニ規定サレ
タモノガアルノデアリマセウカ、ソレカラ利益配當ト云フコトハ是ハ規定ノナイコトデアリマ
スガ、總テノ保險事業ノ上ニ於テハ内外國共ニアルコトデ、サウシテソレニ依ッテ政府ハ
認可シテ居ルノデアル、既ニ政府ガ認メテ居ル事實ヲ茲ニ掲ゲルノハ不穩當デアルト云

フコトハ如何デアリマセウカ、保険料返還ト云フコトモ一般ノ規定ニ依レバ其ノデア
ト言ヘバ言ヒ得ラレルノデアアル、故ニ順序カラ言ヘバ保険料返還ノ事項ヲ揚ゲル以上ハ
利益配當ノ場合モ揚ゲテ置ク方ガ其ノコトデアアルマイカ、ソレトモ別ニ弊害カ何カアル
ノデアリマスカ、ソレカラモウ一ツ御尋ヲシタイノハ保険料仕拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタ
トキハ時効ニ依ッテ消滅スルデアアルガ、保険料ヲ仕拂ハズニ契約ノ成立ツモノデアナイ、時
効ドコロデアナイ、保険料ヲ拂ヘナケレバ契約ガ成立タヌデアアル、「オープンポリシー」
ト云フ通帳ニ書込シテ居ルモノガアル、サウ云フ場合ニハ保険料ハアトカラ拂フガ、ソレデ
モ「オープンポリシー」ノシマヒニ保険契約條項ガ書イテアル、之ヲ拂ハナケレバ保險ノ効
失フ、仕拂ノ義務ヲ生ジナイ、ソレハドウ云フコトヲ指シタノデアアルカト云フコトヲ御尋
致シマス

○政府委員(山内確三郎君) 利益配當ハ勿論商法中ニ契約關係ニ付テ保險ノ利
益配當ト云フヤウナコトニ付テ規定シタモノハアリマセヌ、唯株主ノ利益配當ト云フコト
ハアル、ソレト趣キヲ異ニシテ居リマス、尙保險關係ノ利益配當ノ時効ヲ短クスル必要
ガアルカモ知レマセヌガ、ソレハ寧商法ノ中ニ規定スルヨリモ法律ニ舉ゲテアル保險業法ニ
規定スル方ガ適當デアリマス

○片岡直溫君 保険料返還ハ……

○政府委員(山内確三郎君) 保險料返還ハ商法ノ中ニ規定ガアリマス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 片岡サシノモウ一ツノ御尋ニ付テ私ハ保險
ノ實際ノコトハ存ジマセヌガ、成程保險料ト云フモノハ仰セノ通り拂込マナケレバ契約ハ
成立セヌ、總テノ保險會社ガ左様ニ取扱ツテ居ッテ、契約ガ斯様な性質ヲ持ッテ居ルモ
ノナラバ成程四百七十七條ノ規定ハオカシイカモ知レマセヌガ、毎月拂込ム方法ガアルノデ
ハゴザイマセヌ、ソレヲ伺ッテ見タイと思ヒマス

○片岡直溫君 實際ハ斯ウナッテ居ル、生命保險ニ於テハ一年ニ拂フノガ原則デアリ
マス、一年ニ拂フ約束ニ依ッテ保險契約ハ成立ッ、總テ其保險料ヲ拂フノハ毎年二回
若クハ四回トシテアルノデアリマスガ、其保險料ヲ拂ハナケレバ保險ハ無効ニナルノデアリ
マス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 能ク分リマシタ、其年二回若クハ四回ニ拂
込ム其保險料ヲ出スモノト見テ差支ナイ、其時ノ保險契約ガ無効トナッテモ其無効ハ
將來ニ向ッテ無効デアッテ、其保險料ニ付テハ會社ハ權利ヲ持ッテ居ル、契約ガ無効ノト
キハ將來ニ對シテ無効デアッテ、保險料仕拂ノ義務ハ殘ルト思フ、ソレ故ニ時効ノ規定
ガアルノデアリマス

○片岡直溫君 保險ノ性質ハ保險料ヲ前ニ拂フ、前ニ拂ハナケレバ保險ノ要素ヲ缺ク
ノデアリマスカラ保險ガ成立タナイ、ソレデスカラ今ノヤウナ御答ヘデハ嵌ラヌヤウニ思フ、
何カ外ノモノデアナイノデアリマスカ、損害保險ノ場合ニ於テハ一種ノ特約ニ依ッテスルコ
トガ出來マス、ソレハ前申シタ「オープンポリシー」デアリマスガ、ソレハ一種ノ「ポリシー」ヲ
渡ストキニ其特約書ノ中ニ保險料ガ書イテアル、此保險料ヲ拂ハナケレバ契約ガ成立タ
ナイ、ドウモ蛇足ノヤウニ思フ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 成程會社ニ依ッテ違ヒマセウガ、例ヘバ四百

三條ヲ御覽ニナリマスト保險ニ記載スル事項ガ書イテアル、此仕拂ノ方法ハ保險會社
ト保險契約者トノ契約ニ依ッテ極マル方法ト見テ差支ナイ、ソレ故ニヤハリ一定ノ時期
ニ拂フト云フコトニ定メテモ差支ナイ

○片岡直溫君 ドウモ司法省ノ當局者ト實業家トハ法律ノ解釋ガ違ヒマスガ、總テ保
險ト云フモノハ保險料ヲ先ニ拂ハナケレバ契約ガ成立タナイト云フコトハ原則上極ッテ居
ル、モウ一應御取調ヲ願ヒマス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) ソレハ法文ヲ御覽ヲ願ヒタイ、損害保險ノ
三百八十四條ニ「損害保險契約ハ當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生ス
ルコトアルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因
リテ其效力ヲ生ス」斯様ニアリマスカラ契約ダケテ法律上ハ成立ツノデアリマス

○長島鷲太郎君 我ハ株式ノコトニ付テ御尋ヲ致シマス、白紙委任狀附株式ハ商習
慣ノ上ニ於テ無記名證券ト同様デアアルハ現行ノ商法ニ於テモ同一ニ見ラレテ居ルノ
デアリマスガ、若シ之ヲ無記名證券ト見テ無記名式ノ株式ト同一ニ見ルト、商法ニ關
連スル法律ノ改正ガナケレバナラヌ、ソレハドウデアリマスカ

○政府委員(山内確三郎君) 白紙委任狀附株式ニ付テハ之ノ初メ材料ヲ集メルト
キニ意見ノ提供ガナカッタデアリマス、勿論此事ニ付テ取調ハ致シテ居リマス、日本ノ
株式ハ株主原簿ヲ書換株式ヲ書換ヘルコトニナッテ居ルガ或ハ其點ハ差圖式ニシタナラ
バ宜イデアナイカト云フコトデアアルガ、サウ云フ意見ガ出テ居ナイ、意見ニ基カズサウ云フ
點ヲ改正スレババロノアルカモ知レマセヌガ、意見ニ基キテ改正スルコト、致シマシタカ
ラ、實際ハ意見ノ範圍内ニ差圖式ニ進シテ規定スルコトヲ止メ、白紙委任狀ノ付タ株
券ハ實際ニ於テハ自由ニ無記名式ノヤウニ轉讓シテ居ル、併ナガラ法律上效力ヲ有ス
ルモノデアナイガ實質ハ白紙委任狀附株式ト居ルコトヲ別ニ否認スル必要ハアルマイ、
ソレデ今日實際ノ要求ヲ充タシテ居ルノデ、規定ヲシナイノデアリマス

○長島鷲太郎君 司法省ニ於テハ白紙委任狀ヲ無記載ノモノ、如クニ裁判所ニ於テ
認メルト云フコトヲ御認メニナッテ居ルガ、ソレヲ認メテ之ニ對スル關係法律ノ改正ガナイ
ト殆ド白紙委任狀附ノ記名證券ノ株式ノ如キモノ効用ニ餘程差支ラズ生ズル場合ガ起
ラウト思フ、例ヘバ之ガ無記名ト極マルト、斯ヤウナ白紙委任狀附ノ株式ヲ紛失シタ
場合ニ於テ一面ニ會社ニ株式ノ書替ヲ求メル、然ルニ白紙委任狀附ヲ轉々シテ居ル場
合ニハ、殆ド無記名證券ト同一ニナッテ、唯漠然白紙委任狀附ノ株式ト云フモノニ付
テハ紛失シタ場合ニハ如何ナル制限ガアリマスカ、政府ノ説明ヲ仰ギタイと思ヒマス

○政府委員(山内確三郎君) 白紙委任狀附證券紛失ノ場合ニ告知催告ノ手續ヲ
スル必要ハアルマイト云フ趣意ノ御尋ノヤウニ聽キマシタガ、一ツノ例デアリマス、ソレハ白
紙委任狀附ノ株式其者ヲ其程度マデノ有價證券ト無記名證券ト同一ニナスト云フコ
トハ立法上ドウカト考ヘマスガ、若シ其要求ヲ充タスナラバ先刻申上ゲマシタヤウニ進シ
テ差圖式ヲ認ムル方ガ立法上適當ダラウト思ヒマス、白紙委任狀附ハ改正ノ當時修正ハ
ナカッタノデ、若シアッタナラバ白紙委任狀附ハ有價證券ト見ヨリ差圖式ト認ムルガ相當
ダト思ヒマス、白紙委任狀附ヲソレ迄ニ效力ヲ認メテ、告知催告ノ手續ヲ定ムルト云フ
コトハ、立法者トシテ穩デナイト私ハ思ヒマス

○加瀬藤逸君 私ハ先達社債券ノコトニ付テ御尋ヲ致シマシタカラ其御答ヲ願ヒマス、是ダケテ宜シ、火災保險ノコトニ付テ實際例ヲ申シマシテ、協議ヲシタイト思フ、火災保險ニ於テハ往々燒殘タル品物ノ價格ニ付テ保險會社ト保險契約者トノ間ニ協定ガ續ラヌ場合ガアリマス、燒殘タルモノハ幾ラデアルト、其價格ヲ積テ保險金額カラ去テ其殘部ヲ渡ス損害保險ノ其火災ノ目的物ハ殘テ居ルシテモ、保險會社ハ成ベク其金額ヲ少クシタイト思ヒ、保險契約者ハ成ベク多クノ金ヲ得ヤウトスルノガ人情デアリマス、ソコデ此協定ガグアノシテ纏マヌ場合ガアリマス、若シ火災ニ罹ッタモノハ隨分災難ヲ受ケテ際アルカラ、保險會社ノ方デゴワク向ハレルト保險契約者ハ止ムナク保險會社ノ云フトコロニ屈服スルト云フ事情ガアル、實ニ災害ヲ受ケテ場合テ早ク自分ノ災難ヲ補フコトニシタイト云フ主義カラ、餘儀ナク斯ウ云フ場合ニ於テハ一步進シテ海上保險ノ場合ニ於ケル意味ノ規定ヲ御設ケニナッタラ如何カト思フ、即チ海上保險ニ於テハ船舶ガ大變ニ破損ヲシ修繕スルコトガ出來ナイヤウナトキニハ、船舶其者ハ保險會社ニテ保險金額ヲ船舶ヲ引受ケル、丁度火災保險モ燒ケ殘タルモノ、價格ノ協定ガ出來ナイ場合ハ、保險金額ヲ全部受ケルコトニシタ方ガ宜イト思フ、尤モ直チニ何時デモ保險契約者ハ其保險物ノ保險金額全部ヲ取ルコトニ致シマス、保險契約者ガ善クナイ手段ヲスルカラ、保險會社ニ於テハ容易ナラナイト云フコトモアリマセウカラ、何箇月間協定ノ纏マヌ場合ハ、是ミト云フ規定ヲ設ケ相當ノ取締ヲ附ケテ、サウシテ此邊ノ利害ヲ補フスルトシテ、免モ角モ海上保險ニ於ケル意味ノ制度ヲ設ケタラ如何カト思ヒマス、此點ニ於テ取調委員會ニ於テモ御説ガアリマシタウガ、ドウカ伺ヒタイ

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 御答ヲ致シマス、第一ノ御尋ハ社債ニ付テノ御尋デゴザイマシタ、私ノ記憶ニ依レバ社債ノ分割拂込ヲ認メタ以上ハ、一部拂込ヲ得タ場合ニ社債券ヲ發行シテ其轉讓ヲ許スコトハ恰モ株券ト同ジニスルガ相當デハナイカ、斯ウ云フ御尋デアリマシタ、此點ニ付テ御答ヲ致シマスガ、元ト此社債ノ金額ノ分割拂込ヲ認メタ理由ハ社債券ノ轉讓ヲ主眼トシテ居ルノデハナカッタデアリマス、會社ガ社債ヲ募ルモ其拂込ガ今差當リ全部ヲ要スル場合デナラ經濟ノ狀態デモウ一二箇月待ッテ宜カラウト云フ場合ガアルデゴザイマセウカラ、會社ノタメニ分割拂込ノ方法ヲ認メル方ガ宜カラウ、斯ウ云フ理由デアッタノデゴザイマス、ソレデ分割拂込ト云フコトヲ認メテハ、外ノ規定ト鈞合ハヌコトニナリマス、會社ニ分割拂込ヲ認メラレタニ拘ハラズ、ヤハリ債券發行ハ金額程拂込ヲナスト云フ沿革ハ左様デゴザイマス、併ナガラ分割拂込ヲ認メタ以上ハヤハリ質問ヲ受ケルハ當然ノコトデ、何人モソコマデハ思當ルコト、思ヒマシタ、之ニ付テノ意見ハ前回ニハ株式ト社債トハ轉讓ノ上ニ於テ、全ク同一デアルト仰シヤッタガ其通りデアリマス、併シナガラ是ハ申上ゲルマデモナク社債關係ハ全ク債權債務ノ關係デ株式ノ關係トハ違ヒマス、株式ノ方ハ之モ申上ルマデモナク債權債務ノ關係バカリデハナイ、イロノ御説モゴザイマセウガ、ヤハリ社員權ト云フヤウナモノデアリマス、ソコデ此社債ヲ單純ナル債權債務ノ關係ト見マスルト、社債ノ一部支拂ノ時ニ社債債券ヲ讓渡スルコトハドウナルカト申シマスルト、ソレハ債務ノ引受ケニナルデアリマス、此債務ノ引受ト云フコトハ御承知ノ通り、民法等ニ於キマシテハ債務ノ引受ト云フコトハ先ヅ原則トシテ認メテ居ラヌノデゴザイマス、成程一方カラ見レバ債權ノ讓渡ニモナリマセウ

ケレドモ、債券ト云フモノハ社債金額ニ付テハ一ノ債權ト見テ居ルノデアリマス、尤モ其一二度ノ拂込ノ時ニハ其金額ニ就テ關係ハ生ジマセウケレドモ、債券ト云フモノハ債券金額ニ就テ一ノ債權ト見ナケレバナラヌト思ヒマス、ソコデソウ云フ民法上ノ原則ニ就キマシテモ大ニ攻究ヲ要スベキ問題デアル、ソレカラ會社ノ方カラ取リマシテハ、是ハ株式トモ違ヒマシテ、社債ノ移轉ト云フコトニナリマスルト、徒ラニ關係ガ複雜ニナリ、種々弊害モアルデアラウト存ジマス、ソレ故ニ是ハ一部支拂ノ時ニ債券ノ發行ト云フコトハドウモ餘リ宜クナイト存ズルノデアリマス、會社ノ債權ノ取立ヲナシマスル時ニ非常ニ困難デアル、徒ラニ轉讓サセテ、サウシテ債務者ノ所在ヲ瞞マスト云フコトニナッテ甚ダ困リマス、ソレカラ第二ノ御尋デアリマスガ、例ハ火災保險ノ場合ニ於テ海上保險ニ於ケルガ如ク、移付ノ規定ヲ設ケル方ガ相當デハナイカト云フ御尋デアリマスガ、此海上保險ノ目的物移付ト云フ規定ノ起リマシタノハ、是ハ各國トモ斯様ニナッテ居ルヤウデアリマス、是ハ沿革ノニ斯様ニナッテ居ルノデアラウト思フ、船舶ガ沈没シタル時、船舶ノ行衛ガ知レナイ、船舶又ハ積荷ガ捕獲サレタトカ、斯様ナ場合ニ於テハ損害ノ程度ヲ調査スルコトガ非常ニ困難デアル、或ハ事實不可能デアルカモ知レナイ、又調査シ得タト致シマシテモ、非常ナ手數ト費用トヲ要スルノデアリマス、ソレ故ニ沿革ノニ斯様ニ制度ガ出來テ來タノデアラウト思ヒマスガ、陸ノ上火災保險ニ至リマシテハ何レノ國モ此移付ト云フ制度ハアリマセヌ、是ハ移付ヲシテ保險金ノ金額ヲ取ルコトガ出來ルト云フコトニナッタラバ、恐クハ保險會社ガ成立ツマイト思ヒマス、ソレ故ニ是ハドウモ一ツ御再考ヲ煩ヒシテ置キタイノデアリマス

○長島鷲太郎君 私ハ一ツ最後ニ伺ッテ置キタイノハ、此法律ニ依ルト「要ス」ト云フ文字ガ多ク使ハレテ居リマス、「要ス」ノ意味ニモイロノアリマセウガ、手形作成ニ關シテ「要ス」ソレカラ例ヘバ運送狀若クハ貨物引換證ニ關シテノ様式ニ就テ用ヒラレテ居ルトコロノ「要ス」斯ウ云フ意味ハ皆同ジヤウニ用ヒラレテ居ルノデゴザイマスガ、即チ尙詳シク申シマス、例ヘバ株式會社ニ依ッテ「現行ノ商法ノ第三百三十二條デアリマスガ、運送狀及貨物引換證ニ依リマシテ或一定ノ書式ガアリマスガ、ソコニ「運送狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ荷送人ノ署名シ又ハ記名捺印スルコトヲ要ス」トアル、ソレカラ第三百二十三條ニ於テモヤハリ同様ノコトガアリマス、斯ウ云フ場合ニ於テハ所謂「要ス」トシテアッテ、其一二ヲ極メレバ之ガ所謂適式ノ證券トナリマスガ、實際ノ上ニ於テハ様式ニ就テハ非常ニ嚴格ニ解釋サレ、或モノニ就テハ緩カニ解釋サレマス、同ジ「要ス」ト云フコトニ就キマシテ區別ガアルヤウニ實際ノ上ニナッテ居リマスガ、此點ハ如何デゴザイマスガ、ヤハリ同一ニ看做スト云フ司法省ノ御考デアリマス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 唯今御質問、御主意ハ商法中ニ「要ス」ト書イテアル文字ハ一樣ノ意味ガアルカ、一ツシカ意味ガ無イカト云フ御尋ノヤウニ思ヒマス、是ハ意味ハ一ツデアリマスケレドモ、唯其要件ヲ具備致シマセヌ時ニ、規定事項ノ如何ニ依リマシテハ、或ハ嚴格ニ解釋サレ、或ハ比較的ニ緩カニ解釋セラレルト云フ區別ハアリマセウガ、意味ハ同ジデゴザイマス

○長島鷲太郎君 然ラバ具體的ニ伺ヒタイノデスガ、手形ニ關スル書式ニ關スル「要ス」運送狀若クハ貨物引換證ニ關スル「要ス」手形作成ニ關スル「要ス」是ハ皆同ジデアッテ、

是ハ法文ニ書イテアル、記載ノ様式ヲ缺イタラバ無効ト看做スト斯ウ見ルノデアリマス
 ○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 手形ノ作成ニ關シマス「要ス」ハ是ハ具備致シマセトナラヌノデス、是ハ申上グルマデモアリマセヌ、所ガ運送契約ニ於テ貨物引換證ニ要件ガ書イテアリマセヌケレバ、貨物引換證トシテ其效ナシト斯様ニ解釋サレト思フノデアリマス、併ナガラソレハ運送契約其モノニハ關係ノ無イコトアル、又貨物引換證トシテ應用スルコトモ差支ナイ、慣例トナッテ居ルト記憶シテ居リマス

○鈴木總兵衛君 唯今長島君ノ御尋ニ關シテ伺ヒマスガ、手形拒絕證書ハ隨分困ツタモノデ、拂ハヌヤウナ者ナラバ逃ゲル、之ヲ搜出スト云フコトハ債權者ガ非常ニ迷惑ヲ感シマスガ、司法省ニ於テハ何カ簡便ナル途ヲ御研究ニナッテ居リマスガ、ソレヲコトハ深ク御考ニナラヌノデゴザイマスガ、又何カ簡便ナル方ガゴザイマシタラバ政府ハ御同意ニナリマスガ、チヨット念ノタメ伺ヒマス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 此拒絕證書作成ノ方法ニ就キマシテハ、御說ノ通り實ハ方法トシテハ完全ノモノデアリマスモイト思ヒマス、ソレハ出來ルダケ簡便ノ方法ヲ考ヘマシタ、ソレハ此規定ハ獨逸ノ新手法小切手法制定ノ時ニ手形ノ拒絕證書作成ノ部分ヲ改正シテ居リマスガ、其最モ新シトコロノ外國ノ立法例ヲ手本ト致シテ實ハ作リマシタ、ソレハ先ヅ拒絕證書トシテ其效用ヲ全ウシテ、サウシテ最モ簡便ニ出來ル方法トシテ考ヘテ規定致シマシタノデスガ、併シ此以外ニ拒絕證書ノ效用ヲ全カラシメ而シテモウ一層簡便ノ方法ガアルト云フコトデゴザイマスナラバ、ソレハ一向其通りニ御修正相成マシテモ異議ハナイノデアリマスガ、兎ニ角拒絕證書ノ作成ヲ簡便ニスル趣意ト云フモノハ、政府ハドコ迄モ簡便ニシナケレバナラヌト云フ趣意デアリマス、御趣意ト一致シテ居ルノデス

○片岡直溫君 チヨットモウ一ツ事實ニ付テ御尋シテ置キタイト思ヒマスノハ、三百二十三條ニ「運送人ハ荷受人ノ請求ニ依リ貨物引替證ヲ交付スルコトヲ要ス」トアル、實際ノ點ニ至リマスト運送人其者ガ貨物引替證ヲ交付シテ居ルコトガ少クシテ、大抵運送取扱人ト云フモノガ貨物引替證ヲ渡シテ居ルコトニナッテ居ルノデ、是ハ尤モ近頃鐵道ノ方デ餘程改良ニナリマシテ、鐵道アタリニ荷物ヲ渡シマスト其引替證ヲ與レルコトニ昨今ナッテ餘程便利ニナッタノデアリマスガ、マダ鐵道ノ方ノ總テノ取扱ハ十分普及セズシテ、ヤハリ運送人ノ手デ以テ引替證ヲ貰フト云フコトガ最モ多イ事實デアルノデアリマス、ソコデ此「運送人ハ」トアッテ運送取扱人ト云フモノヲ商法ノ上デ認メテ置カナイト云フコトガ甚ダ不便デアルノデアリマス、ソレハ實際ノ狀況ヲ申シマス、運送取扱人ガ貨物引替證ヲヤリマス、其引替證ヲ以テ却テ土地ノ銀行ハ直ガ爲替ヲ取組ムノデス、其荷物ノ行先ニ向ッテ爲替ヲ取組ム、其爲替ヲ取扱フ銀行ガ其先々へ持ッテ行ッテ通知ヲスルト云フコトニナッテ居リマス、ソレデアリマスガ、運送取扱人ガ貨物引替證ヲ渡シマス時分ニ、其運送取扱人ノ身元薄弱ニシテ甚ダ危險ナリト云フ場合ニハ土地ノ銀行ハ爲替ヲ組マヌ、爲替ヲ組ムダケノ信用ノアル者デナケレバナラヌ、實際取扱人ハサウナッテ居リマス、ソレデアリマスガ或ハ取扱人トシテ置クト、責任上不都合アルカ知ラント云フ御懸念上カラ、入レテナイカ知リマセヌガ、事實ハサウナッテ居ル、之ヲ取扱人ノ手デ引替證ヲ貰ッテ、ソレガタメニ融通ガ止ツタト云フコトガ事實ナシ、ソレハ土地ノ銀行ガ爲替ヲ取

組ム者ニ於テ信用ヲシテ與レルダケノ者ヲ荷受人ニシテ居ルノデアリマス、是ハ當然運送人ノ次へ運送取扱人ト云フ文字ガ入ル方ガ實際ノ手續デアリマス、ソレヲ入レラナイト云フノハ何カ御調ベニナッタモノガアリマスガ

○長島鷲太郎君 唯今片岡君ノ言ハレルノハ荷爲替ノ場合ニハ其例ガアル、殊ニ齋藤政府委員ノ御出身地ノ山形地方ニ於テハ其習慣ヲ認メテ居リマス、片岡君ノ言ハレル通りデアリマス、ソレダケヲ申シテ置キマス

○政府委員(法學博士齋藤十一郎君) 運送取扱人ニモ貨物引替證ヲ發行セシムル方ガ宜シト云フ意見ハ貴族院ニモドラカラカ出シタ意見デアリマス、貴族院デモ一緒ニ研究ヲ致シマシタ問題デゴザイマス、併シ段々研究ヲシテ見マス、此實際運送人ガ貨物引替證ヲ渡スノハ現行法ノ三百二十七條ニ依テ自ラ運送ヲ爲シテ、サウシテ運送人ト同一ノ權利義務ヲ有スルト云フコトカラシテ、運送人ニ貨物引替證ヲ交付スルノデナイカ、斯様ニ解釋シタノデアリマス、若シサウデゴザイマセヌケレバ運送取扱人ガ貨物引替證ヲ出スト云フコトハ全ク意味ヲ爲サヌノデアリマス、何トナレバ申上グルマデモナク此貨物ノ占有ト云フモノガ、事實上ノ占有ハ運送人ガ持ッテ居ルノデアリマス、運送人ガ持ッテ居ルノデアリマスガ、自分ガ貨物引替證ヲ發行シテ、ソレト引替ニソレヲ渡スト云フ證券デアリマス、ソレハ運送取扱人ガ運送人ニ占有ヲ移シテシマヒマスガ、貨物引替證ヲ發行スルト云フコトハ理窟ニ合ハナイ、運送人トシテ責任ヲ帶ビテ自カラ運送ヲ爲スト云フコトデ貨物引替證ヲ發行シテ居ルノデナイカト思ヒマス、然ラザレバ理窟ガ合ハヌト存シマスガ、是ダケヲ御答シテ置キマス

○松田源治君 本員ハ委員會ノ進行ヲ圖ルタメニ一種ノ動議ヲ起シタイト思ヒマス其動議ハ大體ノ質問ハ此處ニ於テ盡キタモノト致シマシテ、一應終了致シテ、本日之ヲ小委員會ニ移シマシテ、其委員ノ數及人員ハ委員長ノ指名ト致シマシテ、先ヅ本員ハ七八人ガ宜カラウト思ヒマスガ、其以上デモイクラデモソレハ便宜委員長ガ御極メニナリマシテ、其指名モ委員長ニ願ヒマシテ、當然委員長ハ其以外ニ御加ハリ下サイマシテ、其權限ハ政府ニ質問シ、而シテ修正ヲ致シマシテ、其修正ヲ總體ノ委員會ニ報告致シマシテ討論ニ移リタイト思ヒマスガ、ドウカ御贊成アラシコトヲ希望致シマス

〔贊成々々〕又〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(法學博士鳩山和夫君) 今松田君ノ發議ハ斯ウ云フ風ニ聞キマシタ、調査委員トモ名ヲ付ケマスガ、委員中ニ更ニ調査委員ヲ置テ、其調査委員ハ質問ヲナシ、調査ヲ爲シ、及ビ修正スベキ點ガアレバ修正ヲ爲ス權限ヲ有ス、サウシテ之ヲ委員會ニ報告スル、サウシテ委員長ノ外ニ七名位ノ委員ヲ置テ委員長之ヲ定ム、委員長モ是ニ加ハル、是ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(法學博士鳩山和夫君) ソレデハ其事ニ決定致シマス、尙委員ハ今直グニ委員長ガ茲ニ指名致シマスケレドモ、ドウシテモ其調査委員ノ報告ノ後ニ、委員總會ノタメニ前一日置カナケレバナラヌト思フ、ソレカラ本會議ノタメニ一日置カナケレバナラヌ、多少修正ガアルモノト豫定スルト、貴族院トノ協議會ノタメニ一日見テ置カナケレバナラヌカラシテ、遅クモ十七日ニハ調査委員カラ報告ヲ得タイト思ヒマス、十七日ノ午前ニ委

員總會ヲ開イテ、其前ニ報告ガ出來レバ十五日デモ開キマスケレドモ、最終ノ期限ヲ十七日トシテ、十七日マデニハ報告シテ戴クヤウニ願ヒタイト思ヒマス、希望ヲ述ベテ置キマス

○松田源治君 十六日中ニ結了シテ十七日ノ總會ニ付スルト云フノデスカ

○委員長(法學博士鳩山和夫君) サウシテ十八日ノ本會ニ上セルト云フノデス——
ツレデハ調査委員ノ指名ヲ致シマス、長島鷲太郎君、小川平吉君、松田源治君、宮古啓三郎君、片岡直溫君、守屋此助君、鈴木惣兵衛君、加瀬禰逸君ノ八人デアリマス、ツレニ委員長ガ加ハリマスカラ九名ニナリマス、ヤハリ其委員長ハ今ノ委員長ト心得テ宜シウゴザイマスカ

(「宜シウゴザイマス」ト呼フ者アリ)

○委員長(法學博士鳩山和夫君) 其調査委員會ハ明日ノ午前十時ニ開キマス、是デ散會致シマス

午後三時十四分散會

明治四十四年三月十三日印刷

明治四十四年三月十四日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局